

伊藤誠教授 年譜 著作 目録

編集担当 吉村信之

年 譜

- 1936年4月20日 現在の東京都台東区柳橋に生まれる
- 1949年3月31日 東京都大田区立馬込小学校卒業
- 1949年4月1日 東京都大田区立馬込中学校入学
- 1952年3月31日 同上卒業
- 1952年4月1日 東京都立日比谷高等学校入学
- 1955年3月31日 同上卒業
- 1955年4月1日 東京大学教養学部文科一類入学
- 1959年3月31日 同上経済学部経済学科卒業（経済学
士）
- 1959年4月1日 東京大学大学院社
会科学研究科 理論経済学・経済史学
専攻修士課程入学
- 1961年3月31日 同上修了（経済学修士）
- 1961年4月1日 同上博士課程入学（在学中に改組名



称変更)

- 1964年3月31日 東京大学大学院経済学研究科 理論
経済学・経済史学専攻博士課程単位
取得退学
- 1964年4月1日 東京大学経済学部助手
- 1966年4月1日 同上 助教授
- 1969年4月1日 東京大学大学院経済学研究科兼任
- 1975年5月28日 「信用と恐慌」により経済学博士（東
京大学）学位取得
- 1980年4月1日 東京大学経済学部教授
- 1997年3月31日 定年により東京大学退職
- 1997年4月1日 東京大学名誉教授 國學院大學經濟
学部教授（大学院経済学研究科兼任）
（～ 2007年3月31日）
- 2003年12月12日 日本学士院会員
- 2007年4月1日 国士舘大学大学院グローバルアジア
研究科教授（～2010年3月31日）
- 2023年2月7日 ご逝去

海外における研究・教育活動

- 1974.3~75.2. London School of Economics and Political Science および
Harvard University 経済学部 客員研究員
- 1978.1~6. New York University 経済学部 および New School for
Social Research 客員助教授 (フルブライト交換研究者)
- 1980.4~10 University of London, Queen Mary College 客員教授
および Cambridge University 経済学部 客員研究員
- 1985.7~8. University of Manitoba 経済学部 客員教授
- 1986.7~8. 日中友好学術交流協議会第14次訪中団の団員として訪中
- 1986.11~87.2. Thammasat University 経済学部 客員教授
- 1987.6~8. Oxford University, Corpus Christi College 客員研究員
- 1990.9~12. York University 経済学部および政治学部 客員教授
- 1997.7~9. University of Sydney 経済学部 客員教授
- 2007.10~08.3. University of London, School of Oriental and African
Studies 客員研究員, および University of Greenwich,
国際ビジネス・経済学部客員教授
- 2008.12. 上海財経大学客員教授

国内における本務校以外での教育活動

- 1969 年度 法政大学経済学部非常勤講師 (経済原論)
- 1975.12. 北海道大学経済学部非常勤講師 (経済変動論)
- 1980.10~81.3. 茨城大学人文学部非常勤講師 (経済原論)
- 1985 年度 九州大学経済学部非常勤講師 (経済変動論)
- 1988.4~10. 京都大学経済学部非常勤講師 (現代の経済危機と情報化)
- 1988.10~89.3. 広島大学総合科学部非常勤講師 (現代経済と情報化)
- 1989.4~90.3. 横浜国立大学経済学部非常勤講師 (経済原論)
- 1989.10~90.3. 広島大学総合科学部非常勤講師 (現代経済と情報化)
- 1994.12~95.3. 筑波大学第一学群非常勤講師 (市場経済と社会主義)
- 1995.4~00.3. お茶の水女子大学非常勤講師 (経済基礎論、現代経済)
- 1997.4~00.3. 慶應義塾大学非常勤講師 (社会主義経済論、比較経済体制論)
- 2001.4~03.3. 金沢大学経済学部非常勤講師 (経済原論)
- 2007.8. 京都大学大学院経済学研究科 (マルクス経済学特論)

学会および社会における活動等

- 1964.4.- 経済理論学会会員（1978.10.-, 2001.4.-2007.3. 幹事）
1964.4.- 信用理論研究学会会員
1974.- 経済学史学会会員（2001.4.-2005.3. 幹事）
1979.-1989. 『季刊クライシス』編集委員
1986.1.- International Review of Applied Economics の
Editorial Advisory Board Member
1988.4.- Capital and Class の Corresponding Editor
1992-1997. 『月刊フォーラム』編集委員
1994.1.- Review of International Political Economy の
Advisory Councilor
1994.10.-98. 『季刊 経済と社会』編集委員
1995.9.- Geoforum の Consulting Editor
1999.4.-09. 季刊『アソシエ』編集委員
2008.6.- 変革のアソシエ』共同代表
2018- *The Japanese Political Economy* 特別編集委員

受賞

- 2010.5. The World Association for Political Economy
（世界政治経済学学会）：
The Distinguished Achievement Award in Political
Economy for the Twenty-First Century. (『資本論を読む』)
2011.11. 瑞宝重光章
2012.5. The World Association for Political Economy
（世界政治経済学学会）：
Marxian Economics Award
2015.11. 第2回 経済理論学会ラウトレッジ国際賞

著作目録

1. 著書・編著書
2. 論文
3. 書評
4. 対談
5. 翻訳
6. その他

1. 著書・編著書

(1) 著書

『信用と恐慌』 東京大学出版会, 1973.4.20. (324+viii頁)

『資本論研究の世界』 新評論, 1977.10.31. (260頁)

Value and Crisis, Monthly Review & Pluto, 1980. (192 pages), second edition 2021. (304 pages).

『価値と資本の理論』 岩波書店, 1981.7. (401+viii頁)

『現代の資本主義－その経済危機の理論と現状－』 新地書房, 1981.11.(272+xvi頁)

『現代のマルクス経済学』 T B S ブリタニカ, 1982.5. (238頁)

『経済理論と現代資本主義－ノート交換による討論－』 (共著者 置塩信雄) 岩波書店, 1987.

『現代のマルクス経済学』 再版, 社会評論社, 1988.10. (238頁)

『世界経済の中の日本』 社会評論社, 1988.10. (269頁)

The Basic Theory of Capitalism, Macmillan, and Barnes & Noble, 1988. (432 pages)

『資本主義経済の理論』 岩波書店, 1989.5. (226頁)

The World Economic Crisis and Japanese Capitalism, Macmillan, and St.Martin's, 1990. (263 pages)

『逆流する資本主義』 東洋経済新報社, 1990. (267頁)

『現代の社会主義』 講談社学術文庫, 1992.1. (279頁)

『世界経済の転換を考える』 時事通信社, 1993.8.10. (225頁)

『現代の資本主義』講談社学術文庫, 1994.5.10. (286頁)

『市場経済と社会主義』平凡社, 1995.2.20. (285頁)

『日本資本主義の岐路』青木書店, 1995.5.1. (251頁)

『現代資本主義をどう視るか』 (共著者 北原勇・山田鋭夫) 青木書店, 1997.6.25.

Political Economy for Socialism, Macmillan and St. Martin's Press, 1995.6. (238 pages)

『日本経済を考え直す』岩波書店, 1998.11. (228頁)

Political Economy of Money and Finance, (共著者 Costas Lapavistas) Macmillan and St. Martin's Press, 1999.1. (301 pages)

The Japanese Economy Reconsidered, Palgrave, 2000. (153 pages)

『貨幣・金融の政治経済学』 (共著者 C. ラパヴィツァス) 岩波書店, 2002.1. (330頁)

『幻滅の資本主義』大月書店, 2006.3.20.(266頁)

『「資本論」を読む』講談社学術文庫, 2006.12.10.(477頁)

『サブプライムから世界恐慌へ』青土社, 2009.7.15.(188 + vi 頁)

『伊藤誠著作集 第3巻 信用と恐慌』社会評論社, 2009.9.30.(372頁)

『伊藤誠著作集 第4巻 逆流する資本主義』社会評論社, 2010.2.25.(390頁)

『伊藤誠著作集 第5巻 日本資本主義の岐路』社会評論社, 2010.7.30.(374頁)

『伊藤誠著作集 第1巻 現代のマルクス経済学』社会評論社, 2010.12.(366頁)

『伊藤誠著作集 第2巻 価値と資本の理論』社会評論社, 2011.4.(410頁)

『伊藤誠著作集 第6巻 市場経済と社会主義』社会評論社, 2012.5.(412頁)

『日本経済はなぜ衰退したのか：再生への道を探る』平凡社新書, 2013.4.(230頁)

『経済学からなにを学ぶかーその五〇〇年の歩みー』平凡社新書, 2015.3.(271頁)。

『マルクス経済学の方法と現代世界』桜井書店, 2016.9.(310頁)。

『資本主義の限界とオルタナティブ』岩波書店, 2017.2.(201頁)。

『入門 資本主義経済』平凡社新書, 2018.2.(302頁)。

『マルクスの思想と理論』青土社, 2020.1.(226頁) 。

『「資本論」と現代世界』青土社, 2023.9.1.(219頁)

『資本主義の多重危機』岩波書店, 2024年刊行予定

Capitalism in Multiple Crises, Brill, 2024年刊行予定

(2) 著書の外国語版

Waarde en Krisis: Een Japanse bijdrage aan de marxistische politieke economie, Groningen, Uitgeverij Konstapel, Dutch version of Value and Crisis, 1983. (240 pages)

La Crise Mondiale, Theorie et Pratique, Claude Meillassoux 訳, Etudes et Documentation Internationales (EDI), 1987. (259 pages)

『価値と恐慌』韓国語版 金秀行訳, 比峰出版社, 1988.3. (221頁)

『价值与危机——关于日本的马克思经济学流派』孙刚・戴淑艳訳, 中国社会科学出版社, 1990.

(175頁)

『世界経済当中的日本—后福特制時代—』陳建・成同社等訳, 中国人民大学出版社,
1990.5.(211頁)

『价值与危机』宋群訳, 中国社会科学出版社, 1991.1. (175頁)

『市場経済与社会主義』韓樹英監訳, 尚晶晶主訳, 中共中央党校出版社, 1996.3. (214頁)

『現代社会主義問題』魯永学訳, 社会科学文献出版社, 1996.4. (151頁)

『貨幣金融政治経済学』共著者 C. ラパヴィツァス (中国語版) 孙刚・戴淑艳訳, 経済科学
出版社, 2001.12(370頁)

『資本主義的发展阶段: 繁荣、危机和全球化』(多人合著), 张余文訳, 经济科学出版社, 2003
年 (392頁)

ΠΟΛΙΤΙΚΗ ΟΙΚΟΝΟΜΙΑ ΤΟΥ ΧΡΗΜΑΤΟΣ ΚΑΙ ΤΟΥ ΧΡΗΜΑΤΟΠΙΣ-ΩΤΙΚΟΥ
ΣΥΣΤΗΜΑΤΟΣ, (with Costas Lapavitsas), ΤΙΑΝΝΗΖ ΚΑ ΣΤΑΝΑΣ Σ, ΠΟΛΥΤΡΟΠΟΝ,
2004. (544 ページ)

『価値と恐慌』 (*Value and Crisis*, second edition, 2021の邦訳) 伊藤誠・江原慶訳, 岩波
書店, 2024年刊行予定

(3) 共著

『経済学の古典 上』共著者 桜井毅他, 有斐閣, 1978.3.20.(18-32, 185-217頁)
The Value Controversy, 共著者I. Steedman, P. Sweezy等, Verso Editions and NLB,
1981.

『マルクス没後100年—その現代的意義—』共著者 いいだもも・菅孝行・北沢洋子・山川
暁夫, 新地書房, 1983.3.

『小泉構造改革を斬る』共著者 横堀正一・加藤晋介・西川進 他, コンパス21刊行委員会,
2001.11.15. (5-16頁)

(4) 編著書

『経済学と現代』共編 宇沢弘文・竹内啓・石井寛治, 東京大学出版会, 1974.9.25. (193-197
ページ)

『競争と信用』共編 山口重克・侘美光彦, 有斐閣, 1979.8.

『価値論の新展開』共編 桜井毅・山口重克, 社会評論社, 1983.12.

- 『いまマルクスを問う』共編 いいだもも, 幸洋出版社, 1984.1.
- 『利子論の新展開』共編 桜井毅・山口重克, 社会評論社, 1984.3.
- 『恐慌論の新展開』共編 桜井毅・山口重克, 社会評論社, 1985.4.
- 『いまマルクスが面白い』共編 いいだもも・平田清明, 有斐閣, 1988.3.
- 『市場経済の学史的検討』共編 小幡道昭, 社会評論社, 1993.6.30.
- 『経済学史』編, 有斐閣, 1996.4.10.
- 『情報革命と市場経済システム』共編 岡本義行, 富士通経営研修所, 1996.5.
- 『マルクスの逆襲－政治経済学の復活－』共編 野口真・横川信治, 日本評論社, 1996.7.
(297-318頁)
- 『進化する資本主義』共編 横川信治・野口真, 日本評論社, 1999.2.10.(295-323頁)
- 『現代資本主義のダイナミズム』御茶の水書房, 1999.10. (3-32頁)
- 『マルクス理論の再構築－宇野経済学をどう活かすか』共編 降旗節雄, 社会評論社,
2000.3. (293-309頁)
- Phases of Capitalist Development*, edited by R. Albritton, M. Itoh, R. Westra and A.
Zuege, Palgrave, 2001. (110-124頁)
- Capitalism in Evolution: Global Contents – East and West*, G.M. Hodgson, M. Itoh, N.
Yokokawa eds., Edward Elgar Publishing Limited, 2001. (179~193頁)
- 『資本主義経済の機構と変動』御茶の水書房, 2001.6. (205-237頁)
- 『危機からの脱出』共編 本山美彦, 御茶の水書房, 2010.4.10.(384頁)
- 『宇野理論の現在と論点』共編 桜井毅・山口重克・柴垣和夫, 社会評論社, 2010.7.30.(297
頁)
- 『世界と日本の政治経済の混迷－変革への提言』本山美彦共編,御茶の水書房 2011.5. (283
頁)
- 『21世紀のマルクス』共編 大藪龍介・田畑稔, 新泉社, 2019.12. (337頁)

2. 論文

- 「貸付資本と産業資本－宇野教授の所論によせて－」『経済学研究』1号, 1963.12.
- 「恐慌論－研究と論争－」『資本論講座』7, 大内力編・共同執筆, 青木書店, 1964.3.1.
- 「鉄鋼業」・「農業」, 『大恐慌の研究』, 玉野井芳郎編, 東京大学出版会, 1964.3.31.
- 「『大不況』－イギリスを中心とする－」『帝国主義研究』, 鈴木鴻一郎編, 日本評論社,
1964. 8.5.
- 「資本貯蓄と信用制度(1)(2)(3)」『経済学論集』33巻1・2号, 34巻2号, 1967.4.7, 1968.7.
- 「資本の過剰蓄積と商品の過剰」『マルクス経済学の研究 上』, 鈴木鴻一郎編, 東京大
学出版会, 1968.9.30.

- 「独占資本と資本の過剰－バラン・スウィージーの共著によせて－」『現代の経済組織』，玉野井芳郎・他編，日本評論社，1970.3.31.
- 「景気循環の変容と帝国主義段階」『経済理論学会年報』第7集，経済理論学会，1970.10.25.
- 「恐慌論の形成」『資本論と帝国主義 上』，武田・遠藤・大内編，東京大学出版会，1970.11.30.
- 「株式資本論の方法と展開－マルクスの株式資本論によせて－」『経済学論集』37巻1号，1971.4.
- 「産業循環と価値法則」『経済学論集』37巻4号，1972.1.
- 「商品の二要因－使用価値と価値－」『経済学論集』38巻2号，1972.7.
- 「カウツキー」『マルクス経済学講義』，鈴木鴻一郎編，青林書院新社，1972.9.20.
- 「貨幣の資本への転化について」『経済学論集』38巻4号，1973.1.
- 「価値法則と生産価格」『経済学論集』39巻4号，1974.1.
- 『宇野弘蔵著作集 第五巻 恐慌論』「解説」，岩波書店，1974.2.
- 「株式資本」『セミナー経済学教室1 マルクス経済学』，鈴木鴻一郎編，日本評論社，1974.5.
- 「信用と恐慌」『博士学位論文 東京大学』，東京大学出版会，1975.
- 「資本論研究を訪ねて」『経済評論』，1974.10，11，1975.2，3，6.
- The Formation of Marx's Theory of Crisis, Bulletin of the Conference of Socialist Economists, vol. IV-1, Feb. 1975.
- 「経済原論－マルクス経済学－」『経済セミナー』，1975.9.
- 「『転形問題』の一考察」『経済学論集』41巻3号，1975.10.
- „Die Entwicklung der Krisentheorie bei Marx“, *Prokla*, 22. 5d, 1976.
- 「現代資本主義と恐慌」『経済評論』，1976.1.(p.58-75)
- 「信用と恐慌の原理的規定－川合・生川両教授の批判に答える－」『経済学論集』41巻4号，1976.1.
- 「経済学原理（経済原論）」『東京大学経済学部五十年史』，東京大学出版会，1976.3.
- 「利潤」『資本論研究入門』，大内秀明・桜井毅・山口重克編，東京大学出版会，1976.10.
- “A Study of Marx's Theory of Value”, *Science & Society*, vol. XL -3, Fall 1976.
- 「欧米の転形論争素描」『社会科学のために』2号，時潮社，1977.1.(44-47頁)
- 「労働価値説の論証」『経済学批判』2号，社会評論社，1977.4.
- 「転形問題の展開」『経済理論学会年報』第14集，青木書店，1977.6.15.(113-122頁)
- 「宇野理論の国際化」『経済評論』，日本評論社，1977.7.(68-79頁)
- 「欧米の資本論研究と宇野理論」『思想』，岩波書店，1977.8.(94-112頁)
- 「価値と生産価格 (1)問題の所在と戦前の論争(2)戦後における研究と論争」『資本論を学ぶ』IV，佐藤金三郎・岡崎栄松・降旗節男・山口重克編，有斐閣，1977.8.(45-80頁)
- 「欧州マルクス学界の動向から」『経済評論』，日本評論社，1977.10.(99-108頁)
- 「帝国主義段階論か独占資本主義論か－北原勇氏の宇野批判への反論－」『書齋の窓』，有斐閣，1977.11，12.

「レーニン『帝国主義論』」「スウィーギー『資本主義発展の理論』」「『経済学の古典(上)』」,
有斐閣新書, 1978.3.

“The Inflationary Crisis of World Capitalism”, *Capital & Class*, Conference of Socialist
Economists CSE Books, 4, Spring 1978.

「インフレーションの基礎規定」『大内力教授還暦記念論文集』, 東京大学出版会, 1978.5.

「マルクス経済学の日米比較」『世界』岩波書店, 1978.5.(31-34 頁)

“The Formation of Marx’s Theory of Crisis”, *Science & Society*, Summer 1978.

«La Formazione della Teoria della Crisi di Marx», *Lavoro Teorico*, 5, Cooperatina
Editorice Nuova Cultura, 1978.11.(p.13-36)

「欧米マルクス研究の新展開」『経済評論』, 日本評論社, 1978.11.(p.90-104)

「恐慌の基礎理論」『現代の景気と恐慌』, 大内力編, 有斐閣, 1978.11.

「現代資本主義とケインズ政策の限界—マンデル後期資本主義論をめぐる—」『マルク
ス経済学の現状と展望』, 大内秀明・桜井毅・山口重克編, 東洋経済新報社, 1978.12.

«Değer ve Buhranlar Üzerine Bir Not» (A Note on Value and Crisis) (M. Desai’nin
Marksist iktisat Teorisi’ni Gözden Geçirirken), *Birikim*, 45, with Ertugrul Tonak, Kasim,
1978.

「宇野経済学入門」『日本読書新聞』, 1979.6.18.

「P. スウィーギーの来訪」『東京大学新聞』, 1979.12.3.

「マルクス経済学の活性化」『経済評論』, 日本評論社, 1979.12.

“Marx’s Theory of Market-Value”, in collaboration with Nobuharu Yokokawa, *Value : The
Representation of Labour in Capitalism*, edited by Dian D. Elson, CSE Books, 1979.

「『人類史の現在』の問題状況」『季刊クライシス』2, 社会評論社, 1980.1.

「スウィーギーの『革命後の社会』論」『社会科学の方法』3月号, 御茶の水書房, 1980.3.(1-7
頁).

「価値の実体規定の展開—結合生産・複雑労働および再生産表式をめぐる—」『経済学
論集』46巻1号, 東京大学経済学会, 1980.4.

「欧米マルクス学派による近代経済学批判」『マルクス経済学の現代的課題』第4章, 佐
伯尚美・侘美光彦・石川経夫編, 東京大学出版会, 1981.1.20.

「現代社会主義の危機」『エコノミスト』, 毎日新聞社, 1981.1.20.

「石油危機と現代資本主義」『季刊クライシス』6, 社会評論社, 1981 冬.

“On Marx’s Theory of Accumulation: A Reply to Weeks”, *Science & Society*, Vol. XIV, No.
1, Spring 1981.

「長期波動論について」『季刊クライシス』7, 社会評論社, 1981 春.

「資本主義の現在とマルクス経済学」『経済評論』4月号, 日本評論社, 1981.4.(45-58 頁)

「長期世界不況」『エコノミスト』, 毎日新聞社, 1981.5.12.

「世紀末大不況の諸様相—貿易摩擦の背景をどうとらえるか—」『エコノミスト』, 毎日

新聞社, 1982.6.14.

「マルクス主義理論と現存社会主義」『季刊クライシス』12, 社会評論社, 1982 夏.(33-43 頁)

「ソ連型社会の支配抑圧関係—スウィーギーの『革命後の社会』をめぐって—」『季刊労働者自主管理研究』No.12, 1982.11.

「現代資本主義の危機とは何か」『季刊労働運動』, 1982.11.

「いま階級を問う—マルクス階級理論の現代的意義—」『季刊クライシス』14, 社会評論社, 1982. 冬.

「世界大不況をめぐって」『労働情報』No.132・133 合併号, 1983.1.1.

「世界経済危機の深化とマルクス理論の復活—ケインズ・レーガノミックスを超えて—」『朝日ジャーナル』Vol. 25, No. 9, 朝日新聞社, 1983.3.4. (15-20 頁)

“The Great World Depression and Japanese Capitalism”, *Capital & Class*, 21, Winter 1983.

“The World Economic Crisis”, *New Left Review*, 138, March/April 1983.

“La Teoria de la Crisis en Marx”, *Economía, Política Y Sociedad*, No. 1, 1983. (p.107-131)

「原発の『経済性』を問う」『季刊クライシス』15, 社会評論社, 1983 春.

「資本主義社会止揚の論拠—置塩信雄氏の宇野理論批判によせて—」『社会科学の方法』5 月号, 御茶の水書房, 1983.5. (1-7 頁).

「世界大不況と日本資本主義」『83 年春闘読本』「83 年春闘読本」共同編集委員会, 1983.(39-45 頁).

「世界大不況と日本資本主義—危機に対処する道—」『月刊ろうけん』2, 労働運動研究センター, 1983.6.

«Inflacuska Kriza Svetovnega Kapitalizma», *Casopis za Kritiks Znanosti*, 57, 1983.

「最近の長期世界不況—その必然性と意義—」『世界長期不況と日本資本主義』, 経済理論学会編, 青木書店, 1983.9.

「労働規律弛緩論をめぐって」『経済評論』10 月号, 1983.10.

「長期世界不況下の日本資本主義」『季刊 クライシス』17, 社会評論社, 1983 秋.(153-160 頁)

「唯物史観と経済理論による社会主義」『経済学論集』49 卷 3 号, 東京大学経済学会, 1983.10.

「マルクスの社会主義像」『社会主義経済学会年報』21 号, 1983.11.

「価値論研究の新展開」『価値論の新展開』, 伊藤誠・桜井毅・山口重克編, 社会評論社, 1983. 12.

「いま階級を問う」『いまマルクスを問う』共編 いいだもも, 幸洋出版社, 1984.1.(13-36 頁).

「1984 年をむかえる経済情勢」『季刊クライシス』18, 社会評論社, 1984 冬.

「欧米マルクス学派との交流」『書齋の窓』331, 2月号, 1984.2.(13-17頁)
「大不況下の景気回復」『84年春闘読本』, 「84年春闘読本」編集委員会編, 新地平社, 1984.2.
「スラッフア理論の意義」『経済評論』3月号, 1984.3.(30-41頁)
「生産性基準原理ベアゼロ論を問う」『社会主義』No.388, 1984.4.
「技術時代の労働の変容」『国民文化』295, 1984.6.1.
「経済危機と日本労働運動の転機」『社会主義』No.227, 7月増刊号, 1984.7.
「シャドウ・ワーク論の転倒性ーイリイチの告発を生かす道ー」『季刊クライシス』20, 社会評論社, 1984夏.
「世界経済の現局面と南北問題」『平和戦略』1984年夏季号, 1984.(36-42頁)
「累積する日本経済の危機」『エコノミスト』, 1984.8.14, 21.(20-27頁)
「ケインズ主義の意義と限界」『二つの経済学』, 根岸隆・山口重克編, 東京大学出版会, 1984.9.(185-197頁)
“What Japanese Administrative Reform Means”, *AMPO*, Vol. 16, No. 4, Pacific-Asia Resource Center, 1984.(p.38-40)
「マルクス理論とフェミニズム」『経済評論』11月号, 1984.11.
「経済危機の構造と『景気回復』」『労働情報』, 1984.11.
「行革路線の経済学的批判」『季刊クライシス』臨時増刊号, 1984冬.
「熟練労働の理論的取扱いについて」『マルクス経済学・方法と理論』, 山口重克・平林千牧編時潮社, 1984.
「労働運動再生の道を探る」『季刊労働運動』40号, 柘植書房, 1985.1.
「85年の経済情勢と賃上げの要求基準」『先見労務管理』Vol. 23, No. 776, 1985.2.17.
「世界経済危機のなかの日本資本主義」『現代世界と人民の闘い 講座 現代と変革』3, 「現代と変革」編集委員会編, 新地平社, 1985.3.
「企業優位・輸出依存型経済を問う」『季刊クライシス』23, 1985春.(125-128頁)
“Japanese Economic Outlook for 1985, *AMPO*, Vol. 17, No. 1, Pacific-Asia Resource Center, 1985. (p.47-49)
「英米におけるマルクス経済学教育」『経済学教育』第4, 1985.7.
“Japanese Capitalism Restructured, *AMPO*, Vol. 17, No. 2, Pacific-Asia Resource Center, 1985. (p.49-51)
「労働価値説と社会主義」『季刊クライシス』エコロジー・フェミニズム・社会主義 臨時増刊号, 1985.11.
「南北問題の現状と連帯の課題」『平和戦略』1985, 1985.11.
「労働サイドからみた貿易摩擦」『エコノミスト』, 1986.1.28.(p.22-29)
“Japanese Capitalism Restructured”, *Canadian Dimension*, vol. 20, No. 1, Pacific-Asia Resource Center, 1986.3.

「日本資本主義の現状とその歴史的意義－企業への利害統合をふくむ国家主義－」『季刊クライシス』25, 1986 冬.(25-32 頁)

“Japan's Trade War: Cause and Implications”, *AMPO*, Vol. 17, No. 4, 1985.

“Soaring Yen Depresses Japanese Economy”, *AMPO*, Vol. 18, No. 1, Pacific-Asia Resource Center, 1986.

「円高不況の背景と意義」『状況と主体』No.127, 谷沢書房, 1986.7.(17-23 頁)

「中国経済改革の現状を見る」『季刊クライシス』28, 社会評論社, 1986 秋.

「最近の欧米価値論論争を省みて」『思想』1986 年 12 月号, 岩波書店, 1986.12.(107-125 頁)

「貿易摩擦と円高不況の行方」『労働運動研究』No.206, 労働運動研究所, 1986.12.

「円高で浮上するタイ経済－輸出・観光が主導, 農業は不振－」『エコノミスト』, 毎日新聞社, 1987.3.

“Straightening Out the Thai Economy”, *Business Review*, Bangkok: Business Review, 1987.3.

「タイから見た日本資本主義」『季刊クライシス』30, 社会評論社, 1987 春.(6-10 頁)

“Skilled Labour in Value Theory”, *Capital & Class*, 31, CSE, Spring 1987.(p.39-58)

「メディア社会化と3つの社会体制－異なるテンポとインパクト－」『書齋の窓』No. 365, 有斐閣, 1987.6.(23-28 頁)

“The View from Bangkok: On Economic Relations with Tokyo”, *AMPO*, Vol. 19, No. 1, Pacific-Asia Resource Center, 1987.

「情報革命と働く人々－歴史のシンドロームの中で－」『季刊クライシス』29, 社会評論社, 1987 冬.(64-70 頁)

「最近の世界経済危機と日本」『理論学習』15 号, 人民新報社, 1988.1.

「資本主義経済の第三の時限爆弾－歴史的発展傾向の逆転による危機－」『世界』512 号, 岩波書店, 1988.3.(64-76 頁)

「『ポストフォーディズム』の時代」『学士会会報』No. 779, 学士会, 1988.

「先祖がえりする資本主義」「情報革命のなかで」「何がおこってもおかしくない!？」

「労働運動と社会運動」『いまマルクスが面白い』共編 いいだもも・平田清明, 有斐閣, 1988.3.

「『ポスト・フォーディズム』の時代」『学士会報』779 号, 学士会, 1988.4.

「『情報革命』は資本主義に何をもたらしたか」『エコノミスト』1988 年 5 月 3 日・10 日合併号, 毎日新聞社, 1988.5.

「現代経済の基本問題と経済学教育」『経済学教育』第 7 号, 経済学教育研究会, 1988.5.(2-8 頁)

「労働価値説に学ぶヒューマニズム」『ESP』No. 196, 8 月号, 経済企画協会, 1988.8. (24-27 頁)

- 「日本はポストフォーディズムへの調整を終えたか」『エコノミスト』，毎日新聞社，1988.9.(26-31 頁)
- 「グラムシの学際的問題性」『生きているグラムシ』，石堂清倫・いいだもも・片桐薫 共編著，社会評論社，1988.1.(165-171 頁)
- 「マルクス経済学－その新たな可能性を探る－」『別冊宝島』82号，JICC 出版局，1988.10.
- 「アジア太平洋圏における日本資本主義」『季刊クライシス』35，社会評論社，1988 秋.
- 「ポストフォーディズム時代の資本主義」『新地平』No. 168，新地平社，1988.12.
- 「現代資本主義をどうとらえるか」『状況と主体』No. 156，谷沢書房，1988.12.
- 「社会主義と価値法則」『現代と展望』No. 29，稲妻社，1989 夏.(31-39 頁)
- 「世界経済はどう動くか－1990 年を迎えて－」『信用金庫』44 巻 1 号，全国信用金庫協会，1990.1.
- 「再生産表式における相対価格の許容範囲，置塩信雄教授との意見交換」『経済研究』Vol. 14, No. 4，一橋大学経済研究所編，岩波書店，1990.10.
- 「新自由主義は東欧を救えるか？」『エコノミスト』，毎日新聞社，1990.10.9.
- 「社会主義が問われている」『季刊クライシス』40，社会評論社，1990 冬.
- 「スミス分業論の現代的意義」『経済学論集』56 巻 4 号，東京大学経済学会，1990.12.
- 「湾岸戦争で深まる米国の経済危機」『フォーラム 90's』3・4 月号，社会評論社，1991.4.
- 「中国の体制改革をどう視るか」『状況と主体』No. 184，谷沢書房，1991.4.(80-83 頁)
- 「社会主義の再生・計画経済の可能性にむけて」『現代と展望』No. 31，稲妻社，1991 春.(18-33 頁)
- 「湾岸後の世界経済と日本」『社会主義』No. 324，社会主義協会，1991.6.(58-64 頁)
- 「ポスト・フォーディズムと日本資本主義」『経済科学通信』No. 67，基礎経済科学研究所，1991.7.(35-50 頁)
- 「再生の道歩む欧米のマルクス経済学」『エコノミスト』，毎日新聞社，1991.10.1.
- 「再浮上する中国的社会主義経済」『エコノミスト』，毎日新聞社，1991.12.1.(78-81 頁)
- “The Value Controversy Reconsidered, Radical Economics, Kluwer Academic Publishers, Bruce Roberts and Susan Feiner eds.1992. (p.53-75)
- 「新自由主義の限界と代替路線」『月刊フォーラム』，社会評論社，1992.5.(14-21 頁)
- 「『新世界秩序』のなかの国際貢献」『世界』第 570 号，岩波書店，1992.7.(128-138 頁)
- 「誰のための技術開発か」『月刊フォーラム』，社会評論社，1992.9.1.(89-92 頁)
- 「日本資本主義の現代的特質」『月刊フォーラム』，社会評論社，1992.12.
- 「ポスト・フォーディズムと日本資本主義」『日本型企业社会の構造』，基礎経済科学研究所編労働旬報社，1992.(96-140 頁)
- “The Japanese Model of Post-Fordism”, *Pathways to Industrialization and Regional Development*, Routledge, M. Storper and A. J. Scott eds.1992. (p.116-134)
- “Japan in a New World Order”, *Socialist Register*, The Merlin Press, R. Miliband and L.

Panitch eds. 1992. (p.197-211)

「高度情報化の逆説的インパクト」『経済評論』，日本評論社，1993.3.

「ロシア・東欧経済－集極的計画経済の解体－」『経済学ガイドブック』，経済学教育学会編，青木書店，1993.6.

「市場経済の学史的検討」『市場経済の学史的検討』共編 小幡道昭，社会評論社，1993.6.30.(3-31 頁).

「日本資本主義の現代的特質」『経済理論学会年報』第 30 集，経済理論学会編，青木書店，1993.10.1.

「日本型ポスト・フォードイズムの一般性と特殊性」『国際論争・日本型経営はポスト・フォードイズムか?』，加藤哲郎・ロブ・スティーブソン編，窓社，1993.10. (日本語版 115-116 頁 / 英語版 p.147-149)

“The Generality and Specificity of Japanese-Style Post-Fordism”, *Is Japanese Management Post-Fordism?: an international debate*, T. Kato and R. Steven eds. Mado-sha, 1993.10.

「社会主義計画経済の可能性にむけて」『社会主義像の展相』，大薮龍介・加藤哲郎・末富弘志・松岡到 編，世界書院，1993.11.

「社会主義経済の価格機構－多様な可能性の民主的決定－」『書齋の窓』No.430，有斐閣，1993. 12.(42-45 頁)

「地域統合で日本は何をめざすべきか」『エコノミスト』，毎日新聞社，1994.2.1.(50-54 頁)

「市場経済をこえて－社会的な経済計算のありかた」『月刊フォーラム』，社会評論社，1994.2.

“Is Japanese Economy in Crisis? ”, *Review of International Political Economy*, Vol.1, No. 1, Routledge Journals, Spring 1994. (p.29-51)

「社会主義と経済学の基礎理論」『比較経済体制研究』第二期 創刊号，比較経済体制研究会，1994.5.(8-21 頁)

「情報革命と金融組織の変革」『現代信用論の基本課題』，飯田裕康・川波洋一編 清水敦と共同執筆，有斐閣，1994.6.20.

「民主的社会主義の現代的再生にむけて」『状況と主体』No.229，谷沢書房，1995.1.(7-12 頁)

「社会主義再建の課題」『月刊 国際労働運動』No. 282，国際労働運動研究協会，1995.1.

“The Labour Theory of Value for Socialism”『研究年報 経済学』Vol. 56, No. 4，東北大学経済学会，1995.1.

「社会主義論の新たな可能性」『経済セミナー』，日本評論社，1995.4.

「円高は何をもたらすか」『国際労働運動』No. 287，国際労働運動研究協会，1995.6.(12-18 頁)

- 「円高で加速する産業構造転換のゆくえ」『季刊 経済と社会』4号, 創風社, 1995.9.(8-26 頁)
- 「現代マルクス学派」『経済学史』伊藤誠編, 有斐閣, 1996.4.10.(257-281 頁).
- 「高度情報化と資本主義市場経済」『情報革命と市場経済システム』共編 岡本義行, 富士通経営研修所, 1996.5.(3-31 頁).
- 「日本経済の成長の限界と中国の高成長」『月刊フォーラム』, 社会評論社, 1996.6.(102-109 頁)
- 「21世紀に向かう中国と日本」季刊『経済と社会』6号, 時潮社, 1996.7.(101-107 頁)
- 「『多国籍』企業と金融」『講座 世界史 12 わたくし達の時代』, 歴史学研究会編, 東京大学出版会, 1996.7.(19-46 頁)
- 「フェミニズムの試金石－北京「行動綱領」に問われているもの－」『女性労働研究』No.30, 女性労働問題研究会編, ドメス出版, 1996.7.(4-8 頁)
- 「21世紀に向かう中国と日本」『経済と社会』第6号 1996年夏季号, 時潮社.
- 「社会主義論の新たな可能性」『マルクスの逆襲－政治経済学の復活－』, 共編 野口真・横川信治, 日本評論社, 1996.7.(297-318 頁)
- “Money and Credit in Socialist Economies: a Reconsideration”, *Capital & Class*, Autumn 1996. (p.95-118)
- 「現代資本主義の分析基準－逆流する資本主義－」『経済理論学会年報』第33集, 青木書店, 1996.10.
- 「日本経済の成長の限界と中国の高成長」李玉・湯重南編『21世紀中国与日本』, 北京大学出版社, 1996.10.(285-298 頁)
- 「社会主義の復権へ－マルクス主義再考の国際学会から」『社会主義』No.406, 社会主義協会編, 1997.4.(52-59 頁)
- 「労働価値説についての覚え書き－侘美論文をめぐって－」『経済学論集』第63巻 第1号 東京大学経済学会, 1997.4.(84-94 頁)
- 「多国籍企業とメガコンピティション」『社会主義』5月号 No.407, 1997.(11-24 頁)
- „Japan zwischen aufholender Entwicklung und Globalisierung“, Steffen Becker/Thomas Sablowski/Wilhelm Schumm(Hg.), *Jenseits der Nationalökonomie? : Weltwirtschaft und Nationalstaat zwischen Globalisierung und Regionalisierung*, Berlin-Hamburg: Argument - Sonderbande Neue Folge, 1997. (p.152-166)
- 「日本経済の構造変化と成長の限界」李玉・湯重南編『21世紀日本と中国』, 北京大学出版社, 1997.4.(396-411 頁)
- 「幻滅の資本主義世界システム」『経済セミナー』No.514, 日本評論社, 1997.11.(48-53 頁)
- 「現代資本主義のグローバル化と経済体制の多様化」『東京経大会誌』, No.207, 東京大学経済学会, 1998.1.(19-29 頁)

- 「廣松物象化論と労働の評価問題」『情況』第2期, 第9巻, 第3号, 情況出版, 1998.3.(110-121頁)
- 「『共産党宣言』の経済学と社会主義論」『経済と社会』12号, 1998年冬季号 第12号, 1998.2.(23-31頁)
- 「ソ連経済の経験とこれからの社会主義」『20世紀社会主義の意味を問う』, 社会主義理論学会編, 御茶の水書房, 1998.4. (53-74頁)
- 「《共産党宣言》中的経済学理論和社会主義論」『馬克思主義与現実』 1998年第2期 馬克思主義与現実雑誌社, 1998.4. (16-21頁)
- 「企業社会から働く人びとの経済民主主義へ」『AERA Mook 38 新経済学がわかる』朝日新聞社, 1998.(109-113頁)
- “The Labour Theory of Value for Socialism” (transl. into Greek) ΟΥΤΟΠΙΑ 28, 1998.(p.177-188)
- 「グローバリゼーションのもとでの日本資本主義とアジアの経済危機」『情況』第2期第9巻第10号, 情況出版, 1998.11.(33-52頁)
- 「現代世界と『共産党宣言』150周年」『思想』 1998年第12号, 岩波書店, 1998.12.5.(43-59頁)
- 「幻滅の資本主義世界システム」『進化する資本主義』(295-318頁), 日本評論社, 1999.2.10.
- 「現代資本主義と貨幣・金融システムの不安定性」『社会科学論集』第97号, 埼玉大学経済学会, 1999.3.(13-27頁)
- 「全球化当中的日本資本主義」『理論視野』, 北京中央党校, 1999.7.(48-53頁)
- 「『資本論』(1867-94年)一多様な経済システムの可能性を読む」『AERA Mook 53 マルクスがわかる』朝日新聞社, 1999.10.(86-90頁)
- “Forms and Functions of Enterprises in Socialist Economies”, *Nature, Society, and Thought : NST*, vol.12., No.4, MEP Publications, University of Minnesota, 1999.10. (p.457-469)
- 「現代資本主義のダイナミズム」『現代資本主義のダイナミズム』御茶の水書房, 1999.10. (3-32頁)
- 「現代の資本主義と社会主義」『季刊 アソシエ』創刊号, 御茶の水書房, 1999.12. (9-18頁)
- 「グローバリゼーションと日本・アジアの経済危機」『グローバリゼーションを読む』情況出版, 1999.12. (92-111頁)
- 「『資本論』と社会主義一宇野理論を社会主義論にどう活かすか」『マルクス理論の再構築一宇野経済学をどう活かすか』社会評論社, 2000.3.(294-309頁)
- “Globalization and the Japanese Economic Impasse”, *Globality versus Democracy?: The Changing Nature of International Relations in the Era of Globalization*, Vienna: International Progress Organization, 2000. (p.131-142)

「社会主義経済条件下の株式会社の機能」『社会主義と 21 世紀』李会浜編，中央編訳出版社，2000.5. (94-99 頁)

「資本主義市場経済はジェンダー・ニュートラルか」『季刊 アソシエ』第 5 号，御茶の水書房，2001.1. (151-159 頁)

「日本における金融システムの機能変化と住宅金融」『國學院大學日本文化研究所紀要』第 87 輯，2001.3. ((1)-(31) 頁)

“Spiral Reversal of Capitalist Development: What Does It Imply for the Twenty-First Century? ”, *Phases of Capitalist Development*, R. Albritton, M. Itoh, R. Westra and A. Zuege eds., Palgrave, 2001. (p.110-124)

「宇野弘蔵と『資本論』—資本主義経済の原理的症候群と社会主義の新たな理論的可能性」『季刊アソシエ』第 6 号，御茶の水書房，2001.4.(252-262 頁)

「資本主義の逆流と社会主義の新たな可能性」『21 世紀の経済社会を構想する』森岡孝二・杉浦克己・八木紀一郎編，桜井書店，2001.5.(13-23 頁)

“The evolutionary spiral of capitalism: globalization and neo-liberalism”, *Capitalism in Evolution: Global Contents—East and West*, G.M. Hodgson, M. Itoh, N.Yokokawa eds., Edward Elgar Publishing Limited, 2001. (p.179-193)

「資本主義経済の景気変動と貨幣・金融的不安定性」『資本主義経済の機構と変動』御茶の水書房，2001.6. (205-237 頁)

「グローバリゼーションのなかで」『國學院大學日本文化研究所報』Vol.38 No.3, 2001.9. (1-3 頁)

“Japan's continuing financial difficulties and confused economic policies”, *Economic Reform in Japan: Can the Japanese Change?*, Craig Freedman ed., Edward Elgar, 2001. (p.98-129)

「市場経済の陰の暴力性」『QUEST』第 17 号，オルタ・フォーラム Q, 2002.1. (8-15 頁)

“Housing Finance in Japanese Financial Instability”, *Seeking Shelter on the Pacific Rim: Financial Globalization, Social Change, and the Housing Market*, Gary A. Dymski and Dorene Isenberg eds., M.E. Sharpe, Inc., 2002. (p.150-168)

「日本の金融システムにおける郵便貯金の存在意義」関東郵政局貯金部，2002.6.(1-17 頁)

「貨幣・金融的不安定性の理論的再考」『信用理論研究』第 20 号，信用理論研究会，2002.6.(91-104 頁)

「日本資本主義の混迷と『改革』」『経済理論学会年報』第 39 集，経済理論学会編，青木書店，2002.9. (151-166 頁)

「マルクスにおける経済学の方法論をめぐって」『国学院経済学』第 50 巻，第 3・4 号，国学院大学経済学会，2002.9.30. (1-39 頁)

「日本資本主義的混乱和“改革”」『政治経済学評論』2002 巻，第 1 輯，中国人民大学出版社，2002.10.(65-75 頁)

- 「経済原論の課題と方法—宇野『原論』の「序論」をめぐって—」『国学院経済学』第51巻, 第1号, 国学院大学経済学会, 2003.1.(1-48頁)
- 「社会主義市場経済の理論的可能性と中国の進路」『東京経大会誌』No.233, 東京経済大学経済学会, 2003.2.(25-44頁)
- «La Crisis Continua de la Economia Japonesa», *Revista de Economía Critica*, No. 1, 2003.(p.259-264)
- 「逆流する現代資本主義」『社会主義』No. 491, 社会主義協会, 2003.10.(63-72頁)
- „Der chinesische Weg: Sozialistische Marktwirtschaft“, (*Supplement der Zeitschrift Sozialismus*, 2003.7-8.(p.1-21)
- 「市場経済と資本主義の理念と現在」『月刊 まなぶ』2004年1月号(再建1号), まなぶの仲間社, 2003.12.10.(42-46頁)
- 「社会主義市場経済と中国道路の理性的分析」『政治経済学評論』2003巻, 第2輯, 中国人民大学出版社, 2003.11. (16-29頁)
- 「新自由主義は何をもたらすか—財政危機との関連—」『月刊 まなぶ』2004年2月号(再建2号), まなぶの仲間社, 2004.1.10. (40-45頁)
- 「世界経済と日本資本主義のゆくえ」『アソシエ 21 ニュースレター』2004年1月号, 2004.1.10.(2-5頁)
- 「市場経済が内包する暴力性」『月刊 まなぶ』2004年3月号, まなぶの仲間社, 2004.2.10.(41-45頁)
- 「転形問題の『新解釈』と貨幣の価値および交換価値」『国学院経済学』第52巻, 第1号, 国学院大学経済学会, 2004.2.(1-24頁)
- 「IT革命のインパクト」『月刊 まなぶ』2004年4月号, まなぶの仲間社, 2004.3.10.(40-45頁)
- 「資本主義のカジノ化」『月刊 まなぶ』2004年5月号, まなぶの仲間社, 2004.4.10.(40-45頁)
- 「バブル崩壊とデフレ・スパイラル」『月刊 まなぶ』2004年6月号, まなぶの仲間社, 2004.5.10.(40-45頁)
- 「資本主義のもとでの人口法則の再考」『国学院経済学』第52巻第2号, 国学院大学経済学会, 2004.3.31.(1-28頁), 改訂版.
- 「社会主義市場経済理論的可行性と中国道路」『海派経済学』第5輯, 上海経済大学出版社, 2004.4.(11-25頁)
- 「新自由主義は日本になにをもたらしているか」『政経研究』No. 82, 財団法人 政治経済研究所, 2004.5.31.(7-15頁)
- 「日本資本主義の農業問題を再考する」『月刊 まなぶ』2004年7月号, まなぶの仲間社, 2004.6.10.(40-45頁)
- 「労働市場の競争的再編と生活不安の増大」『月刊 まなぶ』2004年8月号, まなぶの仲間

社, 2004.7.10.(40-45 頁)
「労働力の差別的再生産と教育の作用」『月刊 まなぶ』2004 年 9 月号, まなぶの仲間社, 2004.8.10.(40-45 頁)
「M 字型就労構造の変化と家庭の変容」『月刊 まなぶ』2004 年 10 月号, まなぶの仲間社, 2004.9.10.(40-45 頁)
「少子化の問題性と資本主義的人口法則」『月刊 まなぶ』2004 年 11 月号, まなぶの仲間社, 2004.10.10.(40-45 頁)
「社会主義の現代的可能性」『月刊 まなぶ』2004 年 12 月号, まなぶの仲間社, 2004.11.10.(38-43 頁)
“Assessing Neoliberalism in Japan, A. Saad-Filho and D. Johnston eds, *Neoliberalism; A Critical Reader* (Pluto Press), 2005.(p.244-250)
「資本主義社会における『人口法則』の再考」『日本學士院紀要』第 59 卷第 3 号, 日本學士院, 2005.3.31.(161-183 頁)
“The Japanese Economy in Structural Difficulties”, *Monthly Review*, vol.56, No.11, April 2005. (p.32-44)
“The New Interpretation and the Value of Money”, Fred Moseley ed. *Marx’s Theory of Money*, Palgrave Macmillan, 2005. (p.177-191)
「転形理論新釈と貨幣価値」『海派経済学』上海財經大学出版社, 2005.4.(104-116 頁)
「現代資本主義における貨幣・金融の政治経済学—ラパヴィツァスとディムスキーの見解によせて—」『商学論纂』第 46 卷第 4 号, 中央大学商学研究会, 2005.5.31.(55-76 頁)
「中国社会主义市場経済と日本新自由主義」『上海金融経済学院学報』2005 年第 3 号, 上海金融学院, 2005.6.20.(4-10 頁)
「日本経済の構造的困難— 景気はなぜ回復しないのか」『世界』No.742, 2005 年 8 月号, 岩波書店, 2005.8.1.(194-203 頁)
「日本経済の構造的困難—景気はなぜ回復しないのか」, 南開大学日本研究院編『日本研究論集』天津人民出版社, 2005.9.(101-115 頁)
「日本経済の構造的困難」『世界経済研究』2005 年第 10 号, 上海社会科学院世界経済研究所, 2005.10.25.(84-89 頁)
「新自由主義と新『帝国主義』」『アソシエ 21 ニューズレター』2005 年 11 月号, 2005.11.10.(2-5 頁)
「評日本新自由主義」『海派経済学』上海財經大学出版社, 2005.11.(101-106 頁)
“Political Economy of Money, Credit and Finance in Contemporary Capitalism: Remarks on Lapavitsas and Dymski”, *Historical Materialism*, Volume 14, Issue I, 2006. (p.97-112)
“Marx’s economic theory and prospects for socialism”, in Hiroshi Uchida ed., *Marx for the 21st Century*, Routledge, Milton Park, Oxon, and New York, 2006.
「資本主義のグローバリゼーション—その歴史的意義と作用」『月刊 まなぶ』2006 年 11

月号, まなぶの仲間社, 2006.10.10.(6-9 頁)

「価値概念の深化とその歴史的基礎：マルクスのアリストテレスとの対話から」『国学院経済学』第 54 巻, 3・4 合併号, 2007.3.31.(31-50 頁)

「グローバル化の時代における国際的価値交換の意義」『アジア・日本研究センター紀要』平成 19 年度, 国士舘大学アジア・日本研究センター, 2008.3.20.(47-68 頁)

「サブプライム金融危機の歴史的意義を考えるーロンドンでの半年」『アソシエ 21 ニューズレター』2008 年 5 月号, 2008.5.10.(2-4 頁)

「サブプライム金融恐慌の構造と意義」『現代思想』2009 年第 37 巻 1 号, 青土社, 2009.1.1.(138-157 頁)

「サブプライムから世界金融恐慌へ」『情況』2009 年 1・2 月号, 情況出版, 2009.1.1.(78-89 頁)

「サブプライム金融危機を考えるー日本の経験と比較してー」『日本學士院紀要』第 63 巻第 2 号, 2009.1.9.(123-146 頁)

「アメリカのサブプライム危機と現代資本主義」『金融風暴』2009.1.(45-53 頁)

“Unequal Exchange in our Age of Globalization”, J. P. Goldstein and M. G. Hillard ed., *Heterodox Macroeconomics, Marx, Keynes and Globalization*, London and New York: Routledge, 2009. (pp.200-210.)

「『資本論』はどのような書物なのか」『マルクス「資本論」入門』(KAWADE 道の手帖) 河出書房新社, 2009.4.(2-37 頁)

「サブプライム恐慌の構造と変革への新たな試み」, 伊藤誠・本山美彦編『危機からの脱出』御茶の水書房, 2010.4.(112-130 頁)

「サブプライムから世界恐慌へ」『季刊経済理論』47 巻 1 号 2010.4.(4-14 頁)

「次貸金融危機的歴史的意義和社会成本」『政治経済学評論』(季刊) 第 1 巻第 2 期, 2010.4.(109-120 頁).

「価値概念の深化とその歴史的基礎ーマルクス、アリストテレス、宇野の対話からー」櫻井毅・山口重克・柴垣和夫・伊藤誠編『宇野理論の現在と論点』社会評論社, 2010.7.30(54-69 頁).

“The Historical Significance and the Social Costs of the Sub-Prime Crisis: Drawing on the Japanese Experience”, *World Review of Political Economy*, vol.1, no.2, Summer 2010. (Spanish translation in *La Crisis de la Financiarization*, compiled by C. Moreras, CLASO, Universidad Nacional Autonomia Mexico, 2011,4. pp.245-70.). C. Lapavitsas ed. *Financiarisation in Crisis*, Leiden・Boston: Brill. 2012.

「ベーシックインカムの構想とマルクスの思想と理論」季刊『変革のアソシエ』no.3 2010.7.

「現代資本主義と国家の役割」『科学的社会主義』No.148 2010.8.(60-70 頁).

「新自由主義の批判的総括」『科学的社会主義』No.149 2010.9.(68-78 頁).

- 「新自由主義の破綻とその後の展望」『科学的社会主義』No.150. 2010.10.(76-85 頁).
- 「懸念される経済回復の反転」『図書新聞』2011 年 1 月 1 日.
- 「ベーシックインカム思想と理論」『日本学士院紀要』第 65 巻 2 号 2011 年 1 月.
- 「『サブプライムから世界恐慌へ』に対する書評へのリプライ」『季刊経済理論』第 47 巻 4 号, 2011 年 1 月.
- 「日本経済のいまと今後を考える」『科学的社会主義』no.154. 2011.2.(6-14 頁)
- 「ベーシックインカム論を検証するーその可能性と限界ー」『世界』no.814, 2011 年 3 月号(147-156 頁).
- 「日本資本主義の二重の激震と代替戦略の可能性」『情況』2011,6・7 合併号(105-114 頁).
- “The Evolution of the Concept of Value and its Historical Ground: From Marx’s Dialogue with Aristotle, *World Review of Political Economy*, vol.2, no.2, Summer 2011.
- 「ベーシックインカム構想と社会主義」『プラン B』no.34.2011.8.(49-57 頁)
- 「大震災・原発事故と日本経済」『科学的社会主義』no.162. 2011.11.(56-63 頁)
- 「ケインズとマルクス」ケインズ学会編『危機のなかで<ケインズ>から学ぶ』作品社,2011.12.(147-162 頁)
- 「冒頭商品論の現代的再考のために」『季刊経済理論』48 巻 4 号.2012.1.(7-18 頁)
- 「サブプライムから国家債務危機へ」『現代思想』2012 年 2 月号
- 「世界経済の現状と TPP を考える」『科学的社会主義』no.166. 2012.2.(58-65 頁)
- 「ベーシックインカム構想とマルクス経済学」『季刊経済理論』49 巻 2 号.2012.7.(6-15 頁.)
- 「新自由主義の基盤とゆくえ」『科学的社会主義』no.171. 2012.11.(23-29 頁.)
- “From the Subprime to the Sovereign Crisis: Why Keynesianism does not Work”, *World Review of Political Economy*, vol.3, no.1, Spring 2012.
- “From the Subprime to the Great Earthquake in Japan”, K.Yagi, N. Yokokawa, S. Hagiwara and G. A. Dymksi ed., *Crises of Global Economies and the Future of Capitalism*, London and New York: Routledge, 2012.
- “Historical Significance and the Social Costs of the Subprime Crisis: Drawing on the Japanese Experience”, C.Lapavitsas ed., *Financialisation in Crisis*, London・Boston: Brill, 2012.
- 「2013 年の世界と日本の経済展望」『科学的社会主義』no.177. 2013.1.(6-14.頁)
- 「世界恐慌の進展とハーヴェイの恐慌論」『変革のアソシエ』no.11. 2013.1.(6-19 頁.)
- “Theoretical Possibilities of a Socialist Market Economy and the Chinese Road”, N. Yokokawa, J. Ghosh and R. Rowthorn ed., *Industrialization of China and India*, London and New York:Routledge, (2013, pp.151-69.).
- 「シルヴィオ・ゲゼルと地域通貨の思想と理論」『日本学士院紀要』第 67 巻第 3 号, 2013.3.29. (111-135 頁).
- “Political Economy for 21st Century Models of Social Democracy and Socialism:

Following up the Issues raised by David Harvey”, *World Review of Political Economy*, vol.4, no.4, Winter 2013.

「世界経済危機とその東アジアへの影響」星野富一・金奉吉・小柳津英知編『東アジアの競争と強調』富山大学『東アジア「共生」学創成の学際的融合研究』2013.3.(10-28頁.)

「アベノミクスの問題点とその克服への道」『科学的社会主義』no.180.2013.4.(pp.14-20.)

「日本経済の岐路—21世紀型社会民主主義と社会主義」『変革のアソシエ』no.13. 2013.7.(48-55頁)

「日本経済の多重危機と流通・生活・復興」『流通』no.33.2013.12.(79-85頁)

「ベーシック・インカムとマルクス経済学」『経済科学通信』no.133.2013.12.(26-31頁)

「アベノミクスの政治経済学」『科学的社会主義』no.190.2014.2.(10-17頁.)

「21世紀型の社会主義と社会民主主義を考える」『月刊社会民主』no.707. 2014.4.

「アベノミクスの政治経済学と対抗戦略」『日本をぶち壊す安倍政権』コンパス21刊行委員会, 2014.3.

「二一世紀型社会主義」『変革のアソシエ』no.16. 2014.4.(82-90頁)

「『資本論』の恐慌論と現代の世界経済危機」『季刊経済理論』vol.51,no.3.2014.10.(7-19頁)

「現代資本主義の多重危機から主体の再生を」『変革のアソシエ』no.18. 2014.10.(15-22頁)

「二一世紀の資本論—格差再拡大の歴史的意義—」『科学的社会主義』no.199.2014.11.(32-39頁).

「『21世紀の資本』論と『資本論』」『現代思想』vol.42-17.2014.12.(88-101頁).

「シルヴィオ・ゲゼルの社会主義論と地域通貨の思想」『季刊経済理論』vol.51,no.4. 2015.1.(58-69頁.)

「『21世紀の資本』論—格差再拡大の政治経済学—」『日本学士院紀要』第70巻1号 2015.9.(35-54頁)

“Political Economy of Disparities Re-expanded: Comments on *Capital in the Twenty-First Century*”, in *Marxism 21*, Vol.12-3, Autumn 2015, pp.244-65.

「新自由主義的資本主義再考—D・コッツの新著によせて—」『政経研究』2016.12.

「21世紀型社会主義の再生へ」『科学的社会主義』no.219. 2016.7. (6-13頁)

「『資本論』と現代日本の人口問題」『科学的社会主義』no.231,2017.7. (12-19頁)

「資本主義の限界とオルタナティブ」『変革のアソシエ』no.29. 2017.6.

「『資本論』の利子生み資本論 再考」『日本学士院紀要』第72巻2号, 2018年1月

「『資本論』と現代資本主義」『科学的社会主義』no.237,2018.1. (75-83頁)

“Neoliberal Capitalism Reconsidered; Reviewing D. Kotz’s Recent Work, *World Review of Political Economy*, vol.9, no.1, Spring 2018.

「マルクスの思想と理論の形成—そのヒューマンイズムの奥行き—」『科学的社会主義』no.239, 2018.3, (84-92頁)

- 「人類史をいかに総括するかー導きの糸としての唯物史観の意義ー」『科学的社会主義』no.241,2018.5. (84-93 頁)
- 「マルクスの信用論と現代資本主義」『信用理論研究』第 36 号, 2018.5. (37-52 頁)
- 「『共産党宣言』の現代的魅力」『科学的社会主義』no.243,2018.7.
- 「先進諸国の衰退と世界経済の転換」『世界経済評論』2018.9/10 月, vol.62.no.5. (41-47 頁)
- 「『資本論』をどう読むか」『科学的社会主義』no.245,2018.9.
- 「21 世紀型社会主義のために」『科学的社会主義』no.247.2018.11.
- “The Structural Change in the World Economy with a Decay in Advanced Countries”, with Robert Rowthorn and Jayati Gosh, in *The Japanese Political Economy*, Vol. 42 I - IV, 2016.
- “How to apply Uno theory to contemporary capitalism in multiple crises”, in *The Japanese Political Economy*, Vol. 45 - IV, 2016. Pages: 112-131, Published online: 04 Jul 2019.
- 「新自由主義の克服と 21 世紀型社会主義」『科学的社会主義』2019 年 7 月
- 「転形論争とマルクス価値論の意義と課題」『季刊経済理論』57 卷 1 号, 2020.4 月。
- “Marx’s Theory of Value for Socialism”, in *The Japanese Political Economy*, vol. 46- I, Pages: 1-11, Published online: 12 May 2020.
- “Japanese Demographic Crisis in View of Marx’s Capitalist Law of Population”, in *Journal of Contemporary Asia*, vol.50-2, 2020.
- 「パンデミックと資本主義の多重危機」『科学的社会主義』no.270, 2020.10.
- The reproductive crisis in neoliberal capitalism: Commenting on D. Elson’s recent paper
The Japanese Political Economy Volume 47, 2021 - Issue 1
- Japanese capitalism in multiple crises
The Japanese Political Economy Volume 47, 2021 - Issue 4
- “G.A.Epsein’s critique of MMT re-estimated”, *The Japanese Political Economy*, vol, 48. 2-4, Nov. 2022.

3. 書評

- 杉原四郎『マルクス経済学の形成』, 日本読書新聞, 1964.6.1.
- 岩田弘『世界資本主義』, 日本読書新聞, 1964.8.3.
- 宇野弘蔵『経済原論』, 東京大学新聞, 1964.8.5.
- 宇野弘蔵『経済原論』, 日高普, 経済原論, 経済学論集 30 卷 3 号, 1964.10.

- 大内秀明『価値論の形成』, 日本読書新聞, 1965.1.25.
- 時永淑『経済原論 上』, 週間読書人, 1965.4.26.
- 降旗節雄『資本論体系の研究』, 経済学論集 32 卷 2 号, 1966.7.
- 小林弥六『経済学批判体系の生成』, 週間読書人, 1967.3.27.
- 大島清『資本論への道』, 日本読書新聞, 1968.3.4.
- 桜井毅『生産価格の理論』, 経済学論集 35 卷 1 号, 1969.5.
- 宇野弘蔵『マルクス経済学の諸問題』, 資本論の経済学, 経済学論集 36 卷 2 号, 1970.7.
- 鎌倉孝夫『資本論体系の方法』, 日本読書新聞, 1970.12.14.
- 後藤泰二『株式会社の経済理論』, 『経済学論集』37 卷 2 号, 1971.7.
- 鎌倉孝夫『資本論とマルクス主義』, 日本読書新聞, 1971.11.22.
- 鈴木鴻一郎編『恐慌史研究』, 経済評論, 1973.10.
- “M. Desai, Marxian Economic Theory”, *Bulletin of the Conference of Socialistic Economists*, February 1975.
- H・ブレイヴァマン『労働と独占資本』, 『日本読書新聞』, 1978.11.20.
- “Earnest Mandel, Late Capitalism”, *Science & Society*, Spring 1979.
- “Roman Rosdolsky, The Making of Marx's "Capital"”, *Science & Society*, XLIII-3, Fall 1979.
- ズデネク・ムリナーシ, 相原久監訳・三浦健次訳『夜寒』, 1980, 新地書房, 公明新聞, 1981.1.26.
- いいだもも『マルクスとコミュニオン社会論』, 週間読書人, 1981.6.8.
- J・レーダ, 日本事務能率協会訳『マイクロ・エレクトロニクスの衝撃ー社会と労働に与える影響ー』, 1981, 日本事務能率協会, 科学 Vol. 51, No. 10, 1981.10.
- 置塩信雄『現代資本主義分析の課題』, 経済研究, 32 卷 4 号, 1981.10.
- 現代インフレ研究所編『現代インフレーション』, 1981.12, 有斐閣, 図書新聞, 1981.2.13.
- いいだもも『エコロジーとマルクス主義』, 信濃毎日新聞, 1982.12.13.
- A・グリッ, J・ハリスン (著), 平井規之訳『イギリス病』, 東京新聞, 1983.1.7.
- 平田清明『コメンタール「資本」』, 朝日ジャーナル, 1983.7.8.
- バーナード・カナヴァン (著), ナトリ・ハワード・瀬下敦子訳『七大経済学』, 現代書館, 東京大学新聞, 1983.10.25.
- ドス・サントス, 青木芳夫訳『帝国主義と従属』, 柘植書房, 労働情報 159 号, 1984.2.15.
- ハンス・ヨーゼフ・シュタインベルク, 時永淑・堀川哲訳『社会主義とドイツ社会民主党』, 御茶の水書房, 週刊ポスト, 1984.5.18.
- いいだもも『85 年体制とは何かー中曽根政治を料理するー』 緑風出版(1984.11.)
- 武藤一美『日本国家の仮面をはがすーアジア民衆の文脈の中で』 社会評論社(1984.11)
- 岩田昌征『凡人たちの社会主義』, 東京新聞, 1986.2.10.
- 安永寿延『労働の終焉』, 農山漁村文化協会, 週刊ポスト, 1986.4.25.
- 降旗節雄『日本経済の神話と現実』, 1988, 御茶の水書房, 週刊ポスト, 1988.4.1.

ミッシェル・アグリエッタ, 齊藤日出治訳『基軸通貨の終焉』, エコノミスト, 1988.8.22.
S・ブルカン, 菊井禮次訳『東欧からみたペレストロイカ』, 1989, ミネルヴァ書房, 公明新聞, 1989.2.20.
北沢洋子『暮らしのなかの第三世界』, 週刊ポスト, 1989.9.22..
ロベール・ボワイエ, 山田鋭夫訳『レギュラシオン理論』, 産経新聞, 1989.6.27 夕刊.
ロベール・ボワイエ, 山田鋭夫訳『レギュラシオン理論』/ミッシェル・アグリエッタ, 齊藤日出治訳『基軸通貨の終焉』エコノミスト, 1989.8.22.
高須賀義博『鉄と小麦の資本主義』, エコノミスト, 1991.12.3.
平田清明著『市民社会とレギュラシオン』, エコノミスト, 1993.11.30.
岩田昌征『現代社会主義・形成と崩壊の論理』, 日本評論社, 情況, 1993.12.
W・ブルス, K・ラスキ, 佐藤経明・西村可明訳, 『マルクスから市場へ』, 東京新聞, 1995.11.5.
山田鋭夫『20世紀資本主義』, エコノミスト, 毎日新聞社, 1995.4.11.
宮崎義一『国民経済の黄昏』, 『東京新聞』, 1995.4.23.
ロバート・アルブリトン著, 永谷清覧訳『資本主義発展の段階論』, 社会評論社, エコノミスト, 1996.1.9.(p.138-139)
SGCIME 編『資本主義原理像の再構築』, 『季刊 経済理論』第 41 巻第 4 号, 桜井書店, 2005.1.20.(104-106 頁).
ロバート・ブレナー著, 石倉雅男・渡辺雅男訳『ブームとバブル』, 東京新聞, 2005.12.4.
トム・メイヤー著, 瀬戸岡紘監訳『アナリティカル・マルクシズム』, 『政経研究』No.88, 2007.5.31.(92-96 頁).
矢尾信光著『21世紀の世界経済と日本—1950-2050年の長期展望と課題—』(晃洋書房, 2012.2.), 『政経研究』No.100, 2013.6.(90-95 頁).
姉齒暁著『豊かさという幻想』(桜井書店, 2013.6.), 『季論 21』23号, 2014 冬.(203-204 頁)
ロベール・ボワイエ著, 山田鋭夫・植村博恭訳『ユーロ危機—欧州統合の歴史と政策』(藤原書店, 2013), 『季刊 経済理論』51-2, 2014.7.
結城剛志著『労働証券論の歴史的位相』(日本評論社, 2013), 『季刊経済理論』51-3, 2014.10.
斎藤幸平『大洪水の前に—マルクスと惑星の物質代謝』(堀之内出版, 2019), 『経済学史研究』62-2, 2021. 1.
G・A・エプシュタイン著, 徳永潤二・内藤敦之・小倉将志郎訳『MMT は何が間違いなのか? —進歩主義的なマクロ経済政策の可能性—』(東洋経済新報社, 2020 年), 『季刊経済理論』58-3, 2021 英文: Review of Gerald Epstein's "What's Wrong with Modern Money Theory?: A Policy Critique", on PERI website, August 2021.

4. 対談

討論「レーニン『帝国主義論』をめぐって」長坂聰，馬場宏二，古川哲，伊藤誠，新田俊三，川田侃，『経済学論集』第33巻，第4号，東京大学経済学会，1968.1.(p.46-71).

対談「マルクス経済学を学んで」伊藤誠，小幡道昭，大島達二，中込正樹，『経済セミナー』No.229，1974.4.

対談「英国病と資本主義の危機」アンドリュー・グリーン，『世界』，1979.9.

対談「現代資本主義と革命後の社会」川上忠雄・伊藤誠，『経済評論』2月号，1980.2.(p.141-161)

シンポジウム「現代社会主義－革命後の社会－」P・スウィージー，山田板仁，菊地昌典，伊藤誠，いいだもも，『季刊クライシス』3，1980春.

対談「イギリスの経済危機とAES」伊藤誠，メグナット・デサイ，『経済評論』，1981.5.(p.130-148)座談会「経済学研究における段階論・現状分析の方法と課題 上・下」，馬渡尚憲，侘美光彦，伊藤誠，春日素夫，平田喜彦，『書齋の窓』No. 304，305，1981.5，7.

座談会「現在の大不況をめぐって」，伊藤誠，アンドリュー・グリーン，ジョン・ハリソン，渡邊寛，『経済学批判』10号，1981.6.(100-126頁)

「世界危機のなかの大国日本」，ジョン・ハリデー，ハーバート・P・ビックス，斉藤孝，伊藤誠，『季刊クライシス』9，1981秋.

対談「自主管理共和国とは何か－社会主義社会の未来を探る 上・下」，伊藤誠，川上忠雄，『東京大学新聞』，1984.12.18，1985.1.1.

対談「労働運動再生の道を探る」，伊藤誠，渡辺勉，『労働運動』40，1985.

対談「書齋派が外へ出ていくとき」，伊藤誠，菅孝行，菅孝行編，『モグラ叩き時代のマルキシズム』，1985.5.

対談「限界みえ始めたサッチャリズム－政治と経済の『矛盾』をどう解決する－」，伊藤誠，ボブ・ローソン，『エコノミスト』，1985.8.6.

討論「自由大討論－社会主義理論フォーラム4」，伊藤誠，水田洋，宇井純・他，『状況と主体』No.123，1986.2.

研究座談会「宇野－伊藤理論をめぐる諸問題」，伊藤誠，長田浩，毛利明子，渡辺多恵子，『経済労働研究』第五集，1986.3.

対談「資本主義認識の射程」，伊藤誠，置塩信雄，『思想』，1986.4.(1-26頁)，『経済学と現代の諸問題』置塩信雄，2004.8.27. 所収.(51-89頁)

座談会「サミル・アミンを囲んで－世界資本主義システムからのディリンキング：韓国問題等－」，伊藤誠，いいだもも，北沢正雄，『月刊 状況と主体』No.130，1986.10

討論「新しい社会形成の原理と構想は何か」，伊藤誠，安藤紀典，塩川善信，『統一』No. 321，

322, 1989.1.1, 1.20.

討論「新しい社会形成の原理構想とは何か」, 伊藤誠, 安藤紀典, 塩川善信, 工人社, 1989.2.

討論「日本における変革を考える<討論>新保守主義の退潮」, 伊藤誠, いいだもも他, 『労働運動研究』 No. 243, 1990.1.

対談「欧州社民主義の未来像は一市場経済化は万能でない」伊藤誠, 平田清明, 『エコノミスト』, 1990.4.10.(50-57 頁)

対談「デザイン主義を超えて－東欧革命と資本主義の世界」, 伊藤誠, 岩田昌征, 『情況』創刊号, 1990.7.

座談会「ソ連東欧に明日はあるか?」, 伊藤誠, 富森 兎, 大津定美, 『エコノミスト』, 1991.2.12.

座談会「燃えるエスニシティと米ソ体制」, 伊藤誠, 姜尚中, 下斗米伸夫, 『情況』, 1991.5.(6-23 頁)

対談「現代社会民主主義の可能性と社会党」, 伊藤誠, 安東仁兵衛, 『社会新報』, 1991.7.30.

インタビュー「エコノミストの肖像 伊藤誠」『エコノミスト』, 1993.4.27.

インタビュー "Oikonomikos Tachydromos (Japan after the Elections)", Interview by C. Lapavitsas, *Economic Post*, 1993.9.2.

インタビュー「"正しいのか資本主義"論」『自由時間』 No. 72, 1994.2.3.

対談「市場経済化する社会主義・中国」, 伊藤誠, 加々美光行, 野口真, 『月刊フォーラム』, 社会評論社, 1994.3. (12-50 頁)

座談会「途上にて－農業理論研究から現代世界農業問題分析へ－」, 伊藤誠, 渡邊寛他, 『研究年報 経済学』 Vol. 56 No. LI, 東北大学経済学会, 1995.1.

インタビュー「新自由主義は資本主義の逆流。格差拡大はよい社会か」『週刊ダイヤモンド』, 1996.6.1.

対談「21世紀への課題(上)－労働運動への提言」『国際労働運動』 No. 300, 7・8 合併号, 国際労働運動研究協会, 1996.7. (88-99 頁)

インタビュー「イギリス労働党最新事情－新しい左派の動き－」『週刊 新社会党』22号(通巻143), 新社会党, 1996.8.20.

座談会「日本の経済学の現状と課題」, 伊東光晴, 黒田昌裕, 竹内啓, 『学術月報』, 1997.9. (37-61 頁)

インタビュー"Trapped by the past", *The Australian Financial Review*, October 22, 1997.

ディスカッション「金融不安定性のゆくえ」『経済と社会』第8号, 時潮社, 1997.冬. (p.7-25)

インタビュー "WHAT POLITICAL ECONOMY FOR SOCIALISM?", *LINKS*, number10, March to July.1998.(p.68-80)

インタビュー「VIPにろぐいん」『金融情報システム』No.216, 財団法人金融情報システムセンター, 1999.6.(8-27 頁)

インタビュー "Japan's Lost Decades", Interviewed by Siddharth Varadarajan, *The Time*

of India, 2001.12.12.

座談会, 岩田弘・侘美光彦・伊藤誠, 「現代資本主義と世界大恐慌(1)世界大恐慌の回避から新自由主義の台頭、金融不安定性の増大へ」『情況』第3期, 第3巻, 第3号, 2002.4.

座談会, 岩田弘・侘美光彦・伊藤誠, 『世界大恐慌の条件は熟しているかー現代資本主義と世界大恐慌(2)』『情況』第3期, 第3巻, 第4号, 2002.5.

座談会, 岩田弘・侘美光彦・伊藤誠, 「二〇世紀の世界史的総括と人類史的課題ー現代資本主義と世界大恐慌(3)」『情況』第3期, 第3巻, 第9号, 2002.11. (122-159頁)

インタビュー「マルクス主義研究の国際的動向ーイギリス・中国での国際学会から」『科学的社会主義』No. 124, 2008.8. (42-51頁)

対談「世界を巻き込む米国発金融危機」上・中・下, 伊藤誠, 坂牛哲郎, 上野建一, 『週刊新社会』, 2008.11.11, 18, 25.(4頁)

座談会「批判的知性の協働をめざしてーアソシエ 21 の二期 10 年とは何であったのか」『アソシエ』No.22, 2009.3.(3-58頁)

座談会, 伊藤誠・河村哲二・三上治・的場昭弘「世界の政治経済の混迷」, 伊藤誠・本山美彦共編『世界と日本の政治経済の混迷』御茶の水書房, 2011.5.

対談: 伊藤誠・塚本恭章「資本主義はのりこえられるかー『入門 資本主義経済』(平凡社)刊行を機にー」, 『週刊読書人』2018.4.20.

5. 翻訳

(1) 訳書

共編訳『論争・転形問題ー価値と生産価格ー』, 桜井毅・山口重克と共編, 東京大学出版会, 1978.3.15.

共編・監訳『欧米マルクス経済学の新展開』, 桜井毅・山口重克と共編・監訳, 東洋経済新報社, 1978.4.12.

『革命後の社会』ポール・M・スウィージー, 訳者解説, TBS ブリタニカ, 1980.5.20.

『目で見える世界の實力』マイクル・キドロン, ロナルド・シーグル, 中央公論社, 1982.11.

『アメリカ資本主義の危機』ポール・M・スウィージー, ハリー・マグドフ, TBS ブリタニカ, 1982.12.

『目でみる世界の軍事力』マイクル・キドロン, ダン・スミス, 中央公論社, 1983.9.

『革命後の社会』ポール・M・スウィージー, 新版, 社会評論社, 1990.

『アメリカ資本主義と労働ー蓄積の社会的構造ー』(河村哲二と共訳) D・M・ゴードン他, 東洋経済新報社, 1990.4.5.

『これからの社会主義ー市場社会主義の可能性』ジョン・E・ローマー, 青木書店, 1997.2.(206ページ)

『狂奔する資本主義－格差社会から新たな福祉社会へ－』アンドルー・グリーン，（横川信治と共訳）ダイヤモンド社，2007.9.

『いかに世界を変革するか－マルクスとマルクス主義の200年』エリック・ホブズボーム（水田洋監訳，太田仁樹，中村勝己，千葉伸明と共訳）作品社，2017.11.（615頁）

（2）翻訳論文

「資本主義の世界的恐慌の現段階」ポール・M・スウィージー，『経済評論』，1978.10.

「アメリカ経済何ゆえの停滞？」ポール・M・スウィージー，『朝日ジャーナル』Vol. 25, No. 7, 1983.2.18.

「世界経済－崩壊へのシナリオ，ロシアン・ルーレットと化したカジノ経済－」A. G. フランク，『エコノミスト』1988年2月2日号・2月9日号，監訳，1988.2.2, 9.

「ソ連の危機の本質は何か(上)(下)－市場経済化では解決できない」P.スウィージー，H. マグドフ，『エコノミスト』1990.4.5.

6. その他

「経済学原理論」『経済学研究入門』，鈴木鴻一郎編・共同執筆，東京大学出版会，1967.3.25.

「マルクス・エンゲルス文書（著作その他）目録」『経済学論集』第33巻，第3号，鈴木鴻一郎共編，東京大学経済学会，1967.10.(111-123頁)

「経済学の古典としての資本論」『東京大学新聞』，1969.12.1.

「鈴木教授の学問的業績－一九七一年一月二日、鈴木鴻一郎教授最終講義における講演－」『経友』No.55，東京大学経友会，1971.4.(74-83頁)

「経済原論」『経済セミナー臨時増刊』，1972.4.

「西欧マルクス経済学の再考－ケンブリッジを訪ねて－」『UP』，1974.12.(13-17頁)

「モーリス・ドップを偲ぶ」『リカーディアーナ』10，1978.3.(7-9頁)

「英訳版のことなど」宇野マリア編『思い草』青木勇印刷，非売品，1979.2.

「現代資本主義論の展開」『季刊クライシス』1，社会評論社，1979秋.(75-87頁)

「P・スウィージーの来訪」『東京大学新聞』，1979.12.3.

「科学と社会主義」『季刊クライシス』4，1980夏.

「現代マルクス経済学Ⅰ」『経済学大辞典』第Ⅲ巻，東洋経済新報社刊，1980.9.

「イスラムパワーとマルクス理論」『季刊クライシス』5，1980秋.

「資本主義の現在－経済・社会・人間－」『季刊クライシス』6，1981冬.

「墨で消された教科書のことなど」『季刊クライシス』9，1981秋.

「現代社会主義を考える2冊の本」『経済セミナー』，1981.12. (120-121頁)

「事典項目－カウツキー・恐慌学説・近代的土地所有・スウィージー，ポール・マーラー・地代学説・封建地代・地代論争・農産物価格・土地価格・ドップ，モーリス・ハーバート・封建的土地所有・窮乏化説・恐慌・人口法則・マルクス経済学の発展」『現代マルクス＝レーニン主義事典』，社会思想社，1981-2.

“Response to Interview Questions on the World Economy”, *Thesis Eleven*, 1982.4.

学会報告「最近の長期世界不況－その必然性と意義」，経済理論学会第30回大会，1982.10.3.

「マルクス・ルネッサンスの意義－没後百年に－」『東京新聞』，1983.2.16.夕刊.

「いまこそ注目すべき長期波動論」『朝日ジャーナル』 Vol. 25, No. 7, 1983.2.18.

「マルクスを現代にこそより広く」『書齋の窓』 No. 324, 5・6月号, 1983.5.(16-20頁)

学会報告「マルクスの社会主義像」，社会主義経済学会第33回大会，1983.6.12.

百科事典，「恐慌」・「経済学説史」・「人口法則」・「賃金基金説」・「賃金生存費説」・「窮乏化説」，平凡社，1983.

学会報告.“The Development of Marxian Economics in Japan”, *Karl Marx Centennial Conference in Milano*, 1983.12.pp.5-8.

解題，ボブ・ローソン，『現代資本主義の論理』，新地書房，1983.12.(337-355頁)

「経済危機の構造と『景気回復』社会と企業に“もの”をいおう」『労働情報』156・7号，1984.1.1.(12-13頁).

国際会議，国連UNITAR，「アジアの将来に向けての研究企画」，バンコク，1984.1.

「欧米マルクス学派との交流」『書齋の窓』No.331, 2月号, 1984.2.

「アジアの科学技術－UNITARセミナーの討論から－」『朝日新聞』夕刊, 1984.3.1.

学会報告，“Japanese Capitalism in the Global Depression”, *Union for Radical Political Economics*, ケープ・コッド，1984.8.

「エリートは再生産されるか」『季刊クライシス 臨時増刊号』，1984夏，(68頁)

「憂慮される諸状況」『学内広報』No. 664, 1984.10.22.

「労働運動再生の道を探る」，『季刊労働運動』40号, 1985.1.

「東大生の地盤低下」『学内広報』No. 665, 1985.1.21.

「労働者宣言の精髓への私の意見」『季刊労働運動』41号, 1985.4.

「百花斉放・社会主義論合宿討論会」『状況と主体』No.114, 谷沢書房, 1985.5.(90-142頁)

「つくば博はフェアだ」『季刊クライシス 臨時増刊号』，1985.7.

「『新宣言』草案を読んで」『社会新報』，1985.9.10.

「新しい価値論からの問題提起」『状況と主体』No.122, 1986.1.(172-176頁)

「自由大討論－社会主義理論フォーラム4」『月刊 状況と主体』No.123, 水田洋・宇井純他, 1986.2.(4-77頁).

「夏休みにすすめる私の5冊」『朝日新聞』，1986.8.2夕刊.

「働くとは」『朝日新聞』，1986.9.27夕刊.

「世界経済から主体変革へ－再現する資本主義の暴力と破壊－」『労働情報』254.5, 1988.1.1.

(8-11頁)

「景気再下降の予兆－破綻した新保守主義政策－」『総評新聞』,1988.1.1.

「グラムシ－30年代との異同－」『稲妻』130号, 1988.1.10.

「グラムシを現代の運動にどう生かせるか－グラムシ国際シンポジウム 報告と討論から－」
『労働運動研究』No.220, 1988.2.1.

「第一分科会（労働運動，社会運動）報告のまとめ」, 『グラムシと現代』, 所収, 1988.7, 伊藤成彦・片桐薫・黒沢惟昭・西村暢夫編.

「納得のいく要求を好条件下の経済状況」『総評新聞』1740号, 1989.1.1.

入門講座「労働と賃金」『労働情報』288, 1989.6.1.(22-23頁)

「フランス革命からマルクス主義へ」『季刊クライシス』38, 1989夏, 社会評論社.

「ポスト・フォーディズムの時代とわれわれの課題」『労働運動研究』 No. 238, 239, 1989.8, 9.

「揺れる東欧－その背景と意義－」『公明新聞』, 1989.9.16.

「自民党政治の危機と日米構造協議の意義」『国際労働運動』 No. 221, 1989.12. (12-18頁)

「自民党の長期支配崩壊の経済的基礎」『明日を拓く』 No. 5, 1989.12.

「『労働情報』に一言－90年代に期待する－」『労働情報』302.3号, 1990.1.1.(16-17頁)

「国家予算五つのポイント」『労働情報』304号, 1990.2.1.(p.15-17)

「『日本の経営』は世界になにをもたらすか？－日本型ポストフォーディズムの一般性と特殊性」『窓』3, 1990春. (266-268頁)

「辞典項目－現代マルクス経済学」『経済学辞典』大阪市立大学経済学部編, 第3版, 岩波書店, 1990.

The 37th Annual Conference of the Japanese Society of Political Economy”, Capital & Class, 42, Winter 1990, London, CES,

「事典項目－土方成美・舞出長五郎・鈴木鴻一郎・宇野弘蔵」『朝日人物事典』朝日新聞社編, 1990.12.

「〈直言〉中国の経済体制改革をどう視るか」『月刊 状況と主体』No.184, 1991.3.(80-83頁)

「湾岸戦争とアメリカの経済危機」『フォーラム 90's』1991.3.

マルクス経済学「欧米での再構築の動き」『日本経済新聞』, 1991.5.29,

「大転換の時代の日本経済」『先見経済』36巻6号, 1991.6.(18-24頁)

「資本主義は勝利していない－社会主義の広い未来に向けて－」『蒼正』6, 1991.7.15(34-49頁)

「常識から良識へ」『日本経済新聞』, 1991.7.23.

「現代社会民主主義の可能性と社会党」『社会新報』, 1991.7.30.

「湾岸後の世界と日本の透視図」『フォーラム90's』, 第2巻8月号, 1991.7.(54-63頁)

「深化するアメリカの矛盾」『湾岸戦争を問う』, 1991.9, 経済理論学会有志の会編. (72頁)

- 「ソ連共産党政権の崩壊に際して」『東京大学新聞』, 1991.10.1.
- 「社会主義に未来はあるのか」『社会主義経済研究』, 1991.11.
- 「いまマルクスを読む」『IDE－現代の高等教育』 No. 331, 1992.1.
- 「ソ連・東欧・中国と社会主義の未来」『交流』, 1992.1.
- 「市場経済は社会主義を超えられるか」『労働組合』3, 1992.3.1.
- 「学問するスリルを味わえ」『東京大学新聞』, 1992.4.14.
- 「大学と批判精神」『東京大学新聞』, 1992.6・2.
- 「誰のための技術開発か」『月刊 フォーラム』9, 1992.9.1(89-92頁)
- 「六月一二日の集会のことなど」『インパクション臨時増刊』, 1992.9.25(49-50頁)
- 「－新たな日本資本主義論争のために－ポスト・フォーディズムと日本資本主義(1)」『建党』現代動向研究所内セコップ, 1992.10.
- 「社会主義・労働運動」『知恵蔵(朝日現代用語'93~'94)』, 1992-1993, 朝日新聞社出版局, 中島誠共同執筆.
- 「世界と日本の政治経済動向－経済危機のインパクト」『交流』 No. 531, 1993.5.
- 「日本におけるマルクス経済学の挑戦課題」『経済科学通信』臨時増刊, 1993.6.1, 基礎経済科学研究所.
- 「農工再結合はマルクスの夢か」『世界の農林水産』, 1993.12, 国際食糧農業協会.
- 「中国社会主義経済をめぐる」『生活協同組合研究』(財)生協総合研究所, 1994.1.5.(55-62頁)
- 「連帯の新しい方法を生み出そう－細川連立政権と私達の選択－」『月刊フォーラム』, 1994.1, 社会評論社.(34-35頁)
- 「世界の経済学者『ポール・スウィージー』」『エコノミスト』, 1994.4.5, 毎日新聞社.
- 「ボストンとソウルの学会から」『季刊 経済と社会』1号, 1994秋, 創風社.
- 「現在の不況雇用不安をどう考えるか」『雇用不安と労働の未来』, 1994.9.1, 日本労働者協会組合連合会 協同総合研究所.(11-14頁)
- 「民主的社会主義の現代的再生にむけて」『月刊 状況と主体』1995-No.229 1月号, 谷沢書房.
- 「社会主義再建の課題」『月刊 国際労働運動』No.282, 1995.1, 社会法人 国際労働運動研究協会.(62-63頁)
- 「円高は何をもたらすか」『月刊 国際労働運動』No.287, 1995.6, 社会法人 国際労働運動研究協会.
- 「第25回 社会主義経済学者学会年次大会」『学術月報』Vol.48, No11, 1995.11, 日本学術振興会.(12-18頁)
- 「社会主義の思想と理論の再生へ」『月刊 フォーラム』, 1995.12, 社会評論社.
- 「日本経済の構造変化と成長の限界」『21世紀日本と中国』国際コンファレンス, 北京大学, 1996.3.28-29.(82-84頁)

- 鼎談「21世紀への課題（上）－労働運動への提言－」『国際労働運動』No.300, 1996 7・8月号合併号, (社)国際労働運動研究協会.(88-99頁)
- 「さようなら、森田桐郎さん－告別式にて－」『経友』No.136, 1996.10, 東京大学経友会, (31-34頁)
- 「女性労働研究とマルクス経済学との連携」『女性労働研究』No.31, 1997.1, 女性労働問題研究会編 ドメス出版.(61-63頁)
- 「97年－新政権下の日本経済の展望－企業中心社会の政治路線にきびしい批判を！－」『国際労働運動』No.305, 1997.1月号, (社)国際労働運動研究協会.(21-26頁)
- 「盛況だった米・マルクス派の学会」『カオスとロゴス』No.7, ロゴスの会編 ロゴス社, 1997.2.(63-67頁)
- 「重新思考：馬克思主義的一次学術大会」『中共中央党校学报』, 中共中央党校主編, 1997.2.(122-126頁)
- “Obituary: Ernest Mandel ,1923-1995－Ernest Mandel on Long Waves and Socialism”, *Review of International Political Economy*, Vol.4 No.1 Spring 1997. (p.248-255)
- 「アメリカ・マルクス派は何をめざすのか」『理論戦線 51』, 実践社編, 1997.春, (35-38頁)
- 「米国での『マルクス主義再考』学会」『週刊 新社会』, 新社会党, 1997.3.4.
- 「事典項目－資本主義」『マルクス・カテゴリーエン』青木書店, 1997.4?
- 「マルクス主義再考のコンファレンスから」『季刊 経済と社会』9号, 1997年春季号, 時潮社, 1997.5. (105-110頁)
- 「これからの社会主義のために－岩井章さんの志を21世紀へ－」『国際労働運動』, (社)国際労働運動研究協会, 1997.5.(p.17)
- 「社会主義・労働運動」『朝日 キーワード[別冊]政治』, 朝日新聞社, 1997.6.(68-73頁)
- 「アメリカ・マルクス派の活力と問題意識－『マルクス再考』誌のコンファレンスから－」『月刊 フォーラム』, 社会評論社, 1997.6.(67-75頁)
- 「レギュレーション理論バルセロナ会議の思い出」『斐然十年』(江草基金のあゆみ), 社会科学国際交流江草基金, 有斐閣, 1997.6.23.
- 「廣松物象化論と労働の評価問題」『廣松涉著作集 月報14』第14巻,岩波書店, 1997.7.
- 「『共産党宣言』150年と社会主義の復権(上・中・下)」『旬刊 社会通信』, No.687~689, 1997.11.21~12
- 「『共産党宣言』150年と社会主義の復権(上)」『国際労働運動』No.316, 国際労働運動研究協会, 1998.1.(11-20頁)
- 「経済の超低成長をどう読むか」『朝日新聞』, 1998.2.9
- 「いま、市場経済をどう見るか」『国学院経済学』第46巻, 第1号, 1998.2.15.(47-74頁)
- 「自己紹介と北京学術訪問から」『國學院大學 院友政経』平成10年号 No.43, 1998.(8-12頁)
- 「社会主義協会の再建に期待する」『科学的社會主義』 再建創刊号, 社会主義協会, 1998.5. (4-5頁)

- 「『共産党宣言』150周年パリ集会報告集から－エッセイ『共産党宣言に想う』」
『情況』1998年7月号 別冊 (p.104-105) 情況出版 1998.7.1.
- 「学叢閑歩－『共産党宣言』のゆうれい－」『國學院大學 学報』第450号, 1998.7.10.
- 講演「『共産党宣言』150周年で国際会議フランス・パリでの集会に参加して」『人民新報』第922号, 1998.7.25
- 「企業中心社会の立て直しを」『全国革新懇ニュース』, 1998.8.5.
- 「『共産党宣言』150周年パリ集会から」『科学的社会主義』第4号, 社会主義協会, 1998.8.(78-85頁)
- 「グローバル化のなかの資本主義と社会主義」『状況と主体』No.278, 谷沢書房, 1999.1.「日本マルクス学派の再結集へ」『情況』1999年3月号, 情況出版, 1999.3.1.(162-165頁).
- 「『アソシエ21』結成にむけて」『科学的社会主義』1999年4月号, 社会主義協会, 1999.4.(78-79頁)
- 「多様な体制、同時進化へ」『日本経済新聞』, 1999.4.30.
- 講演「日本経済を考え直す」, 学士会主催夕食会, 『学士会報、午餐会・夕食会 講演特集号』所収, 1999.6.(94-109頁)
- 「社会主義」『知恵蔵』朝日新聞社, 1999.1.~.
- 「『資本論』の経済学に惹かれて」『経済セミナー』No.539, 日本評論社, 1999.12.
- 「現代の資本主義と社会主義－日本経済を考え直して」『季刊 自治体労働運動研究』準備1号,
全国自治体労働運動研究会, 1999.12.(8-35頁)
- 「辞典項目－置塩信雄・社会主義・スウィーギー」『経済思想史辞典』, 丸善, 2000.
- 「世界と日本の経済」-1- 『週刊 新社会』第184号, 2000.1.1., -2- 第186号, 2000.1.18., -3- 第187号, 2000.1.25., -4- 第188号, 2000.2.1., -5- 第189号, 2000.2.8., -6- 第190号, 2000.2.15.
- 「20世紀はどういう世紀であったか－現代の資本主義と社会主義」『社会主義』2000年第444号, 社会主義協会, 2000.2.(53-60頁)
- 「事典項目－独占資本・労働価値説・剰余価値・『共産党宣言』・『資本論』」『政治学事典』, 弘文堂, 2000.
- 「事典項目－資本・競争・資本主義」『新マルクス学事典』弘文堂, 2000.6.25.
- 「社会主義」『朝日キーワード別冊－政治・憲法』(p. 232-239) 朝日新聞社, 2000.7.
- 事典項目 Makoto Itoh, *A Biographical Dictionary of Dissenting Economists*, second edition, ed. by Philip Arestis and Malcolm Sawyer, Edward Elgar, 2000. (pp.319-326).
- 「事典項目－価値形態、差額地代、支払手段、商業資本、生産的消費・個人的消費、生産的労働・非生産的労働、世界貨幣、絶対地代、蓄蔵貨幣、地代、宇野弘蔵、階級、価値法則、産業資本、資本の過剰、資本の集積・資本の集中、修正主義、剰余価値、生産過程、絶対的剰余価値・

相対的剰余価値、相対的過剰人口、疎外・外化、転化問題、等価交換・不平等交換、流通過程、商品・商品生産、共産主義、社会化」『経済学小辞典』第4版，都留重人編，岩波書店，2001.

「グローバル化のなかで」『國學院大學日本文化研究報』vol.38 No.3, 2001.9.(1-3頁)
講演「現代資本主義の歴史的位相」，協会50周年記念，『科学的社会主義』1月号，社会主義協会，2002.1.

「事典項目一恐慌と信用、恐慌と利子率、投機と信用」『大月金融辞典』大月書店，2002.4.
講演「現代の社会主義ーソ連崩壊から21世紀へ」，社会主義協会「新春の集い」，『科学的社会主義』第50号所収，社会主義協会，2002.6. (6-31頁)

「未曾有の経済危機に追い込む不良債権処理加速策」『全国革新懇ニュース』，2002.11.15.
「現代の社会主義（上）一克服すべき社会主義の課題」『週刊 新社会』第336号，2003.3.4.
“Japan Society of Political Economy”，*Information Bulletin of The Union of National Economic Associations in Japan*, No. 23, 日本経済学会連合，2003. (p.52-61)

「事典項目一価値尺度、擬制資本、銀行信用、金融資本、信用、信用貨幣、農業恐慌、利子生み資本、流通費、铸貨」『経済学小辞典』第3版改訂，都留重人編，岩波書店，2004.

「事典項目一アナーキズム、科学的社会主義、共産主義、原始共産主義、市場社会主義論、資本主義、社会主義、社会主義経済、社会主義市場経済、修正主義論争、商品、西欧マルクス主義、大不況、転形問題、転形論争、東欧改革派、不足の経済学、マルクス価値論論争、マルクス経済学、マルクス主義、マルクスの価値論、マルクス・ルネッサンス」『経済事典』岩波書店，2004.

「重かったタイプライターのことなど」『現代の資本主義を読む』半田正樹・工藤昭彦編，批判社，2004.1.31.(161-163頁)

随筆「少子化問題を考える」『若木育成会会報』第34号，2004.2.1.(18-20頁)

「日本農業 再考（上）」『週刊 新社会』第400号，2004.7.6.

「日本農業 再考（上）」『週刊 新社会』第401号，2004.7.13.

「事典項目一アナーキズム・科学的社会主義・共産主義・原始共産主義・市場社会主義論・資本主義・社会主義・社会主義経済・修正主義論争・商品・西欧マルクス主義・大不況・転形問題・転形論争・東欧改革派・不足の経済学・マルクス価値論論争・マルクス経済学・マルクス主義・マルクスの価値論・マルクス・ルネッサンス・価値尺度・擬制資本・銀行信用・金融資本・信用・信用貨幣・農業恐慌・利子生み資本・流通費・铸貨・人口問題・相対的過剰人口・労働力の価値」『現代経済学事典』伊東光晴編，岩波書店，編集委員，2004.9.16.

「侘美さんの思い出ー修業時代のころからの」『経友』No.160，東京大学経友会，2004.10.25.(4-13頁)

「思いがけず20世紀を生きのびて」『戦争と動乱の世紀を生きのびて』神戸市民運動交流センター，2005.2.27.(15-17頁).

「少子化問題によせて」『院友経済』2005年，國學院大學院友経済会，2005.3.20.(30頁).

「日本資本主義の構造的困難と社会主義の未来ーアソシエ21，七年目を迎えて」『アソシ

エ21 ニューズレター』2005年4月号, 2005.4.10.(3頁)
講演「グローバル化とマルクス派の任務」, 社会主義協会「新春社会主義講演会」,
『科学的社会主義』No.98, 2006年6月号, 社会主義協会, 2006.6.(6-20頁).
「伊藤誠教授 略歴・業績目録」『国学院経済学』第55巻, 第3・4合併号, 2007.3.20.(433-
469頁).
「イギリス経済の特異な活況をみて」『経』No.73, 2007.11. (巻頭エッセイ)
寄稿「世界のマルクス経済学の試練と転機—ロンドン滞在の印象から—」『経済理論学会
ニュース』No. 10, 2008.9.(6-9頁)
講演「現代資本主義の位相—新自由主義のゆくえ—」『季刊 自治体労働運動研究』vol.30, 2
008.10.(2-19頁).
「『資本論』を読み続けよう」『アソシエ21 ニューズレター』終巻号, 2009.3.(8-10頁).
講演「サブプライム金融恐慌」『科学的社会主義』No.132, 2009.4.(8-28頁).
講演「サブプライム世界恐慌と日本経済—『構造改革』・新自由主義の破綻をどう見るか
—」『新宿区職労ブックレット2』, 2009.8.(54頁).
「凜然たる批判的知性の追憶」『學士會会報』9月号, 第878号, 2009.9.(12-14頁).
「故川田 侃会員追悼の辞」『日本学士院紀要』第63巻3号, 2009.3.(242-244頁).
「世界経済危機の構造とゆくえ—容易でない脱出への道筋—」『図書新聞』2010.1.1.
「発刊の辞」『季刊変革のアソシエ』No.1, 2010.1.
「解説」『恐慌論』宇野弘蔵著, 岩波書店, 2010.2.(267-294頁).
「故大内力会会員追悼の辞」『日本学士院紀要』第64巻4号, 2010.3.(224-227頁).
「日本資本主義を襲う二重の激震」, 伊藤誠・本山美彦編『世界と日本の政治経済の混迷』御
茶の水書房, 2011.5.
「ダモクレスの剣になった原子力—経済学のきっかけ—」河合塾「東日本大震災」復興と
学び 応援プロジェクト「今こそ、学問の話をしよう」http://www.wakuwaku-catch.jp/ouen_pj/message/1104.html, 2011.6.11.
「解題」デイヴィッド・ハーヴェイ『<資本>の謎』作品社, 2012.2.
「TPPは安心の政策方針ではない」『農業共済新聞』2013.7.2週号.
随想「アベノミクスのもたらすもの」『全国商工新聞』2014.1.14.
随想「大人手当が日本をすくう?」『全国商工新聞』2014.2.10.
随想「エコな経済戦略で発展」『全国商工新聞』2014.3.10.
講演「日本経済はどうか」『月刊探理夢到』no.1. 2014.4.1.
随想「地域通貨で商工業活性化を」『全国商工新聞』2014.4.7.
随想「広がるワーカーズコープ」『全国商工新聞』2014.5.12.
講演「21世紀の変革構想を—グリーン・リカバリー、BI、地域通貨、ワーカーズコープ
の意義—」『協同の発見』263, 2014.10.(18-34頁)
「解説」『経済原論』宇野弘蔵著, 岩波書店, 2016.1.(247-273頁).

「マルクス生誕200年。どう記念するか」『週刊新社会』2018.6.26.
編集長インタビュー「マルクス経済学者として」『フラタニティ』2018.8.
「関生型協同運動に期待する」『変革のアソシエ』no.33. 2018.8.
「反戦・平和への想い」『日本学士院ニューズレター』No.30. 2022.10.
「『資本論』と現代世界－マルクス理論家の追憶から」(1)～(10) 2021.5-2022.10『科学的社会主義』No.277, No.278, No.280, No.282, No.284, No.286, No.288, No.290, No.292, No.294.